
◎議案第21号の質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第1、議案第21号 平成28年度松崎町一般会計予算についての件
を議題といたします。

昨日に引き続き質疑を続けます。これより歳出74ページ、民生費から、113ページ、商工費
までの質疑を許します。

○1番（伴 高志君） それでは民生費の方で、まず3点お願いします。

75ページ、民生委員調査活動業務委託ですけれども、これは27年度との比較でもそんなに変わ
ってはいないですけれども、どのような活動で何名体制で行っているのか教えてください。

2つ目、77ページ、訪問給食サービス事業委託、これはどこで行っていて何食位で、1食い
くらというようなところを教えてください。

あと、同じく77ページでボランティア配食サービス事業、これはどのような事業かというこ
とを教えてください。以上3点。

○健康福祉課長（高木和彦君） 75ページの民生委員の活動費でございます。いま町内には民生
委員は29人の方がおられます。その方々が地区の高齢者ですとか障害がある方、いろいろ含め
て、訪問ですとか生活見守り活動を行っています。

続いて、77ページの訪問給食サービスでございます。これにつきましては、事務的なものは
社会福祉協議会に委託していますけれども、町内で6社の飲食店が協力してくれています。こ
の中で個人負担は300円、町が300円負担で600円のお弁当を1日に1回配食するというよう
な活動です。

今までは、池代ですとか門野ですとか、雲見ですとか配達できないところがあったんですけ
れども、町内の福祉事業所なんかも協力してくれまして、町内全域に配送できるようになりま
した。また糖尿病なんかがある方用のお弁当なんかも作ることができるようになっています。
数ですけれども、予算上は平成28年度予算では8500食分予定しています。

また、ちなみに、これはあらかじめ利用者を登録するんですけれども、町内いま132人の方
が登録をしています。

同じく77ページのボランティア配食です。こちらにつきましても、町内で4つほどこの食事
を作るサービスの団体がございます。そちらの方で食事を作って配食するというもので、年間
だいたい1800食を作っています。

○1番（伴 高志君） まず、最初の民生委員調査活動業務委託なんですけれども、これは29名
というのでわずかに27年度より減りましたけれど、人数が減ったということはありませんか。

- 健康福祉課長（高木和彦君） 特に人数の変動はございません。
- 1番（伴 高志君） 人数は減っていなくても少し予算が削られたという、この理由は何かありますか。
- 健康福祉課長（高木和彦君） 活動費の中で・・・、これについて、ちょっとお時間をいただいてよろしいでしょうか。
- 議長（稲葉昭宏君） 伴君、次の質問があれば、先にそっちへ回して・・・。
- 1番（伴 高志君） 81ページ、これは27年度でも同じ予算なんですけれども、遊具点検業務委託というのは、これはどういう場所でどんなことを行っているのでしょうか。
- 健康福祉課長（高木和彦君） 町内に8か所児童公園がありまして、そちらの方にブランコですとか滑り台があります。これについての施設の・・・サビがないかとか、破損がないかというような形ですが、個々の場所を言った方がよろしいでしょうか。
- 1番（伴 高志君） いいです。
- 議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。
- 1番（伴 高志君） 82ページ、賀茂保育所連合会。これも27年度との比較ですけれども、予算が結構減っているような数字ですけれども、ここの理由を教えてください。
- 健康福祉課長（高木和彦君） 連合会の予算とは・・・、具体的にはどこ・・・。
- 議長（稲葉昭宏君） 何節ですか。節を言ってください。何ページの何節と・・・。
- 1番（伴 高志君） 82ページ、一番上ですね。19節、負担金、補助及び交付金。
- 健康福祉課長（高木和彦君） 賀茂地区保育士会と賀茂保育所連合会ですけれども、これは4000円と2万円計上していますけれども特に変動はしていません。
- 議長（稲葉昭宏君） 課長、もういいかな、もう一つの答弁。
- 健康福祉課長（高木和彦君） 先ほどの民生費の活動費ですけれども、毎年内容は若干変わってきます。基本的な金額は変わっていないはずですが、この変動というのは、その時の活動の内容とか事業によって若干の違いがありますので、そういうことをご理解をいただきたいと思えます。
- 議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。
- 3番（長嶋精一君） 112ページ、牛原山町民の森整備計画なんですけれども、そもそもこの計画は誰の発想なのかということ。そしてこれがなければ、この計画をやらないと困るという住民の要望、希求というものがあつたのか。

その理由は、私が考えるのは、あの牛原山の山の上の方に登るあの道が非常に急なんです。そして、単なる急じゃなくて斜めになっているところが各所あるわけですが、斜面に。若いお母

さんが軽四輪に乗って、自分の子どもを連れてあそこに行きたいと思うのでしょうか。20年前からほとんどあまり活用されていないという記憶がございます。テレビとか映画、ドラマで一部頂上から映したということはありますでしょうけれども、その20年間使われていないところを復活させるというのは、一般質問でも言いましたけれども、相当なエネルギーがかかるんですよね。そういう点から非常に私は疑問に思います。

そして本事業の着地の構想、それとそれにかかる費用、これをどういうふうに考えていますか。私は一昨日ですか、経営であると、企業経営と同じだと・・・、それと、それは過去の歴史に学ぶべきだと、特に戦は学べると言いました。持久戦においては攻撃の終末点をどこに置くか、これが非常に・・・、最初から確立されていなければならないというのがセオリーなんですよ。非常に私は疑問に思います。どうぞお答えください。

○企画観光課長（山本 公君） 牛原山町民の森ですけれども、57～58年くらいですかね、整備がされまして、町民の森という形の中で、町民の皆さん・・・森のボブスレーがあったりとか、芝生の広場があったりとかという形の中で、小学校の子どもたちが利用したり、あるいは観光客の方が来ていただいたりとか、そういう利用はこれまでされてきています。「世界の中心で、愛をさけぶ」というようなことで、テレビ撮影がされた場所であるということの中で、そちらを訪れる方もいるということの中で活用がされているわけですけれども、年数がかなり経過いたしまして、施設が老朽化をしてきて予算の中でも撤去したりとか、そういう状況があるわけです。

当初町の方で整備をして、町が管理をしてというような中で、これまで進めてきたわけですが、住民の皆さんの意見を聞きながら、どういう山にしていくのかということワークショップなんかを通じて考えていくというようなことの中で予算取りがされていますし、補正予算の中でもそのようなご説明をした中で、予算を措置していただいた経過がございます。

行政だけではなくて、町の皆さんが関わって、あの山あるいは周辺部一帯をどういう形でやっていったらいいのかというようなことを施設、ハードばかりじゃなくてソフト的な使い方等も含めた中で考えていくという機会の中で、大阪にあるスタジオLという山崎亮さんの方をお願いいたしまして、まちづくりですとか、あるいはそういう森づくりに非常に知識も経験もある方を講師ということで来ていただいて、いろいろ指導していただいてやってきていると・・・。

役場の職員についても、ファシリテーターというんですか、うまく調整ができるような形の中で勉強をしたりというようなことは、これまでの議会の中でもお話をさせていただいていますし、ワークショップなんかも環境改善センターの文化ホールで開いているのをご覧いただいているかと思うんですけれども、そういうものを通じて牛原山町民の森あるいはまちづくりを

進めていくということでございます。

予算の関係については、26年度で50万円ほど、27年度で26年度から繰越した分が200万円位ありますので、それと27年の9月の補正で取らせていただいた370万円、28年度で800万円ほど、都合1400万円位になるかと思えますけれども。そのような中で先ほど申しましたように職員研修ですとか、あるいは山崎さんの講演会みたいなものを開催したり、あるいは28年度においては町民を交えたワークショップを開催していくということで考えています。

住民の皆さんが関わっていただいた中で、牛原山をうまく活用していく方法を考えていくということでございます。

○町長（齋藤文彦君） この牛原山町民の森は、前議員の斉藤重さんが、牛原山は町民の森だ、森だと言われているけれども、何も活用していないんじゃないかというようなことを質問されたことがあります。

それで、何か牛原山がこの近くにあるわけですから、町民の森として何か活用できるようにできないかということはずっと考えていました。

それで、やっぱり町が作ってどうだというような感じにすると、どうしても町民の皆さんも最初は使うかもしれないけれど、なかなか使うことが・・・、何と言いますかね。時間が経つてくると、飽きてくるようなところがあるわけですから、町民の皆さんと町がうまく話し合いながら、どういうふうにしたらいいかというようなことで進めているわけです。

私は、牛原山を見ますと昔は桑畑で製糸業の中心だったところもありますし、また、文覚上人と源頼朝が会った相生堂、また沢谷城があそこにあったかどうかわからないわけですが、沢谷城があったと・・・、北条さんの出城があったというようなこともありますし、そのようなことをうまく皆さんで話し合いながら、町の皆さんが牛原山にやっぱり1週間に一度くらい登るような形にすればいいのかなと思っています。

また、松崎町はなかなか命山をつくるわけにはいかないわけですが、あの牛原山をうまく利用して高台で見晴らし台を作って命山にするとか、いろいろなことを考えてくると、皆さんが牛原山を町の山として・・・、皆さんが見てくれるようになってくれればいいのかと私は思っています。

若い職員といろいろ話をするわけですが、「お前たちは沢谷城とか相生堂をどう考えるんだ」と言うと、「私も考えているけれども、それが実現できるようになんかできないでしょうか」という話が出るわけですが、今マウンテンバイクのコースづくりということで今ある人がやっていますけれども、やっぱり子どもたちが牛原山に登らないとやっぱり大人の方も登らないと思いますので、子どもたちが自転車ですぐ遊べるような施設を考えているわけで

すけれども、そのようなことをやっていければ、本当に町民の森として輝きを増すのではないかなと思っていますところでございます。

本当に時間がかかると思うんですけれども、やっぱり町民の皆さんと一緒に作り上げた私たちの牛原山だよというような感じにぜひしていただきたいなと私は思っているところでございます。

○3番（長嶋精一君） 子どもたちが、その自転車でいくという計画は結構ですけれども、最初に質問した大変な斜面、それと急な上り坂。それについては、もしこの計画を履行するとしたら、まず道路をしっかりしていかないと、利用する人はいなくなっちゃうんじゃないかと思うんですよ。その点はいかがですか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 議員のおっしゃっている道路の問題は、私の方の担当ですので答えさせていただきます。

今の牛原山に行く道路については、農道としてただいま管理してまして途中林道等も入っているわけでございます。

議員のおっしゃっている部分は、ちょうど農道の中、牛原山の間地点のS字の急カーブのことだと解釈していますけれどもその場所については、もう私が当初から、役場に入ったころから既にでき上がっていて、経緯、歴史を聞いてみると災害が大変多く、2回も3回も災害をくらって、結局あのような形になってしまったということでございます。

どうしても、その線等を直すとなると大変な金額もかかりますし、現状の牛原山の地形から勘案すると、今のS字のカーブの部分でしかちょっと通行ができないんじゃないかと解釈します。

どうしても改修するとなると、はっきり言って大変な金額がかかると解釈しています。

○町長（齋藤文彦君） 私もバイクで何回もあの細い道に行くわけですがけれども、車であれを広げるとするのは非常に厳しいところがあると思うので。遊歩道といいますか、人が歩く道がたくさんあるわけですがけれども、各方面から登る道があるわけですがけれども、あそこは結構厳しいところがありますので、本当に歩くための遊歩道みたいな感じでもうちょっと傾斜を緩めて、車で行くんじゃなくて健康のために歩いていくような形にすれば、私はいいのではないかなと・・・これは私の考えですけれども、皆さんからいろいろな考えが出てくると思うんですけれども、そうすればいいのではないかなと思っています。

そして、よくパノラマ、パノラマと言いますがけれども、皆さんの意見が出てきて、本当にこういうことにするんだよというのを図面である程度パノラマみたいにして、徐々に徐々にこういうような牛原山にしますよというのを皆さんに、目に見えるような形にしていきたいな

と私は思っています。

玄関の所に牛原山の理想像といいますか、こういう形ができますよという夢を皆さんの、町民の意見と町の意見を合せて、こういうのができますよというような感じを・・・、本当に玄関の所に置いておけば、入って来た皆さんが、「こういうことになるのか」「ここはこうした方がいいじゃないの」とか、いろいろ意見が出てきて本当に松崎が一体になる一つのことになるのではないかなと私は思っているところです。

○3番（長嶋精一君） 住民が考えて、住民と一緒に考えていこうというのは非常に理想だと思うんですよ。町長がよくおっしゃるんですけどね。

ただ、町長が昨日確か言ったと思うんですけども、なかなか住民から意見が出ないと・・・。ふるさと納税のお返しする品物についてもなかなか意見が出ないということをしていましたけれども、通じてくるんですよ。なかなか案が出ないと思う。

私は大事なことは、これをやろうとしたならば、町長がどういう構想をもっているかということがなければ、これはだめですよ。この牛原山町民の森を当初つくったのは、依田敬一さんだと思うんですね、町長。この人は、壮大なロマンをもっていたんです。そしてリーダーシップ・・・、それと極めて現実的だったんですよ。夢ばかり見ていたわけじゃないんですよ。その点が、依田敬一さんと齋藤文彦氏の違いが相当あるでしょうし、それとまた時代も変わっている。あの時は、やっぱり人口減少するなんていう時代を誰も想定していなかったんです。担い手もいた。そういう違いがすごくあるわけですよ。

だから、これも住民と一緒に考えて、あるいは有名なコンサルタントを呼んでワークショップをやりながら決めていきたいと思いますよといったら、時間もかかるし、お金もかかるし、それで結局最終的には大したことはなかったということになると、これは相当な無駄ですよ。よくよく考えてもらいたいと思います。

それから課長がさっき言って・・・、ワークショップを何回もやって、それともう我われ議員の方は承諾しているはずだというようなことを言ったけれども、そういうもんじゃないと思うんですよ。私は、これについては、非常に疑問に思います。町長、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） あとでちょっと詳しいことを総務課長の方から言ってもらいますけど。依田町長と比べられて本当にうれしい感じがするわけですけども。ただ、私は依田さんの本を何回も読んでいるわけですけども、依田さんはいろいろなことをやったわけで、みんな町でやってくれますよ、町がやりますよというようなことを町民に植え付けたような感じが私はしているわけです、自分も町民として。みんなたなぼた式でみんな町がやってくれるんだというような、町民が、気持ちになったような気がしたわけ。やっぱりこれは住民の皆さんが自主

参加で立ち上がってこない、私は本当に松崎は元気にならないと思っています。

この牛原山というのは、私はその一つにしたいわけ。それで町民と・・・、いま協働、協働と言いながら、なかなか協働ができないわけですが、これを一つの成功例にしたいなと思っているところでございます。

昔の牛原山のことは総務課長たちが詳しいですから、ちょっと話してください。

○総務課長（山本秀樹君） 牛原山のちょうど整備の時に、昭和 55 年から 59 年頃まで担当していろいろやらせていただきました。当時は、町長の方でUWS構想というのがありまして、牛原山を中心としたいろんなまちづくりの構想というのがありまして、ただ内部の整備の方法については、それは職員がいろいろ勉強して考えなさいということで、課題を与えられて野鳥の森を作ったりとかボブスレー・・・、ああいう遊び場があるのがいいんじゃないかということで、いろいろほかのところも見て回ってボブスレーを作ったとか、そういう経緯があります。

いろんな計画をやる中で、トップダウンでやる場合もあるでしょうし、いろんな地域の方々の意見を聞きながらボトムアップでやる場合もあるでしょうし、今回は、前回牛原山の整備がどちらかと言えば行政主導で行ってきた中で、当時はやっぱりかなり賑わいがありましたけれども、その後飽きられたとか、その後新しいものがいろいろできてこなかったとか、整備が不十分だったようなこともあると思いますけれども、いずれにしても、なかなか訪れる人が少なくなってきたというのもあって、それを昔の賑わいを取り戻したいということで、今回は職員の方が各地を見て回ったり、いろいろ勉強する中で山崎さんを見つけて、そういうところの指導をあおぎながら今度は住民を交えて整備計画を作ってみようかと、どちらかと言えばボトムアップの方法でやってみようかというようなことで、今回起こってきたということというふうに査定の時には、そういう話になっています。

そういうことであれば、別の方法で再度牛原山を中心としたまちづくりをもう一度構築していこうということは、ある意味、今の時期やるべきかなというふうに財政当局としては考えたこととございます。

なお、先ほど議員の質問の中に 20 年間使われていなかったと言いますが、少なくなっただけとはいえ、訪れる人はかなりいまして、このあいだも・・・、自分も関わったものですから、ちよくちよく孫を連れて行ったりしていますけれども、ついこのあいだも牛原山に登りましたら、やっぱり 4 家族ほど来ていました。大変賑わうというほどではないですけども、それでも先端の行き止まりのところには、車が 4 台止まっていたりとか、そういうような状況が週末はみられます。当時鉄塔を建てた時もあるところから見た景色が、松崎を巣立った子どもたちが、「わがふるさととは・・・」という時に思い描く、頭に浮かぶ光景が、牛原山から見下ろした風景にな

るように当時整備しましたので、今回もそういうような思いができるような所にしたいということで、今回整備をするわけなので、ぜひご理解の方をお願いしたいと思います。

- 3番（長嶋精一君） 総務課長は、昔携わったということで非常に熱が入っていて、行政マンとしては理想的な答弁をしたわけですがけれども、私は、やはりこれは継続性というのが一番大事だと思うんですよ、継続性が大事。

依田敬一さんが町長をおいたら、あまり使われなくなったということがあるわけですからね。これは歴史です。だから、それが継続的にずっと行われるものだという事について、私はまず心配でありますし、元々やはり住民と一緒に考えていくという、そのこと自体がまだまだ・・・、大変失礼だけれども、住民がそういうふうな形で育っていないと思うんですよ。ずっと育っていないということじゃないんですけれどね。

したがって、こういう時にやっぱりトップがこういうふうにするんだということで、構想をはっきり言って、やるのならやっていただきたいと思います。まず構想をもたなければだめだと思います。それにいくら金がかかるということも明示する。どこまでやるんだということも明示する。これはトップの責任だと思います。コンサルに任せちゃいけないと私は思います。

最後に、山田桂一郎さんという観光カリスマという人がいます。知っていると思うんですけれども、この方がこのように言っています。だめな町の共通項、単発イベントをやる。ゆるキャラをやる。新しいものにすぐ飛びつく。単発イベント、ゆるキャラ、新しいものにすぐ飛びつく・・・、ぜひこうなって欲しくないとは私は思っています。私の質問は以上です。

- 議長（稲葉昭宏君） 答弁はいいですか。

- 町長（齋藤文彦君） 松崎町は、ゆるキャラはありますけれど、別に単発じゃなくて、ずっと花とロマンのふる里でやっているわけですから、ちょっとそれには当たらないと思いますよ、松崎町は。

それで、やっぱり私も町長をやってみて、やっぱり町民の皆さんが他人事じゃなくて、私事にしないと、みんな他人事で誰かがやってくれるだろうというような感じの人が多いわけですがけれども、私事にして自分がやるんだというような形にしてやっていかないと、本当に町は元気になるなと痛感しているわけでございます。

- 3番（長嶋精一君） やっぱりトップによって違うんですね。あの人のことを信じていけば大丈夫だというふうに部下なり町民が思うのか・・・、例えば、戦でも、あの隊長の下についていたら死んでしまうぞというようなところには誰もついていかないわけですよ。

いいですか、町長。ですから、町民がと言いましたけれども、まず町長が、そういうふうに信じられるに値するかというようなことが一番肝心だと思います。したがって、町長の発想、

構想というものを私はしっかりこれを示す必要があると思います。

皆さん方、こういうふうになんか幸せになるんだとか、こういうことで活用をできるんだということをやらないと、コンサルタント任せでは、絶対やめて欲しいと思います。以上です。

○議長（稲葉昭宏君） 町長、よろしいですか。

○町長（齋藤文彦君） 指導者にもいろいろなタイプがあるわけですよね。上からガンガンくる・・・、友だち感覚で一緒にやっついこうと・・・、いろいろなタイプがあるから、それによってやっていくしかないと思いますよ、自分の性格に従って・・・。あの町長がだめだといったら、落選するわけですから。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○8番（土屋清武君） 82 ページ。まずはじめに、認可外保育所利用者補助金があるわけですが、この認可外という中に・・・、町内で認可外というのが何施設くらいあるのか、しんわさんのことも指しているのか、それとも、それ以外に町内にあるのかどうか、その辺を。

そしてまた、この認可外というのは、資格を持った人がこの中に働いているのかどうか。そして、この場合については、認可外であるから町の補助を出すと、そこでなんか事故があった場合については、補償なんかがあった場合に、町に責任があるのかどうか、その辺をちょっとお伺いします。そこらをちょっと詳しく教えてください。私も全然わからないものですから。

それで、この 87 ページですけれども、火葬場運営費があるわけですが、これは説明ですと、炉の修理とかということですが、町長、これは・・・。

議長、すみません。これに関連するんですけれども・・・。

○議長（稲葉昭宏君） はい、いいですよ。どうぞ、関連している内容であれば結構です。

○8番（土屋清武君） 先だって、西伊豆町長が、火葬場を安城岬へということが新聞に出たわけですが、町長、その関係についてはある程度耳にしているのか。議員の人たちは全然知らないと思うんですけれども、そんなところはあるのかどうか。

そして・・・、それはその辺でいいですけれども、次に 98 ページ、負担金、補助及び交付金のところで、ここの交付金のところで、多目的機能支払交付金の中で中山間地域等直接支払事業費という・・・、直接という言葉は、私は見慣れない言葉ですので直接というのが、どういうところを意味しているのか。その下にもあるわけですね、交付金の中山間地域等直接支払交付金。そして関連するもので、その次のページ、交付金のところで県営中山間地域総合整備事業ということがありますが、これが説明でいくと、23年から今年28年で終わりというこの事業ですね。これは貫七線の関係も含まれているのか、それとも貫七線は中山間が終わるとなると、その次の事業として何か当てはまる事業が見受けられるというような見通しはつ

たのかどうか、その辺をちょっと教えてください。

○町長（齋藤文彦君） 西伊豆町の火葬場の件ですけれども、私も新聞で初めて知ったような状況でございます。西伊豆町長からそういう話を聞いたことは今のところないです。

○健康福祉課長（高木和彦君） まず、82 ページの認可外保育所利用者負担金についてご説明いたします。

松崎町は、いま聖和保育園が一つと、もう一つしんわさんという介護施設の方で職員の子どものための認可外保育所を運営しています。これについては、その従業員だけでなく外からも受けることができる形になっています。そうした時に、例えば聖和さんがゼロ歳児が多すぎて、とても入所できないという時に、これは自宅でということではできませんので、そういう時には、しんわさんの方をお願いします。

その時に保育料の差額が出るものですから、その差額の分について補てんして待機児童をなくしようというものでございます。

それと補償と資格の関係ですけれども、保育所をつくる時には児童が何人と時には保育士が何人という基準がありますので、それはキチンと守られています。事故があった場合ですけれども、これは保育所の方でそれなりの保険等をかけていまして、うちの方で補助金を交付したから責任が町に及ぶということとはございません。

○産業建設課長（齊藤昌幸君） 農業費の関係ですけれども、はじめに中山間地域等直接支払交付金 194 万 1000 円、直接という言葉が・・・ということですが、この制度はもう既に平成 12 年度から制度が始まりまして、松崎町でも継続して事業を実施しているわけでございます。

中山間地域等直接支払いといいますと、平たん地と中山間地の傾斜地の農地の作業が困難であるという、その違いに対して国の方で一定の基準に基づいて、その農地で耕作する・・・、これは一つの集落協定というのを結ぶわけですが、その中の集落協定に参加する農業者に対して直接お金を支払う制度でございます。補てん的な意味でございます。ただ、これはもう既に全国的に認知されている制度でございます。

一方、多面的機能支払交付金。これは 2 年くらい前から新しい制度でできたわけですが、平たん地の中でもやはり農業用の水路とか法面とか、さらにはビオトープ等環境的な面それから維持管理の面で苦勞している部分、そこを維持していく意欲のある団体に対して直接その交付金を支払うということで、これも認知されている部分でございます。

それで県営中山間地域総合整備事業 1920 万円。これが今年 28 年度の県営中山間事業の負担金になっているわけですが、28 年度で終わりというふうに確か当初の説明では言ったわけですが、現在のところ 28 年度において、県の方でまた計画の延長の手続きをふんでいる

わけでございます。その中で貫七線はもうこの当初の県営中山間事業の中に含まれていますけれども、当然引き続き計画延長の中に入れて事業を実施していく予定だというふうに聞いています。

○5番（藤井 要君） 関連ということで、先ほどの長嶋議員なんかもありましたけれども牛原山の関係。私も山崎亮さんの改善センターでやっているやつ・・・、まだ議員の方で出ている方もいますけれども、これは私も傍聴させてもらっています。

その中で、私たちが昔職場で習ったこととか講義を受けたことと、今の山崎さんがやっているようなことは全然違うんですね、昔と比べて。

自分が考える中では、ああいう頭を真っ白にとか白紙にして、それから新しい発想を生み出すのかなと。私たちが参加した場合に、もう古い概念をなくしてしまっているようなことで、今やっているのかなと思うんですよ。

そういう中で、例えば忍者ごっこや昔は城をつくりました。えんのみ鉄砲ですか、そんなのをやったりというような・・・、思い出しながら。今度は3月18日でしたか、企画方面に入りますよね。じゃあ、どうするんだということで、それに今から私は期待しているわけですが。そうした中で先ほど登り口が急であるとか何万人って・・・、年間やった時に、道路がどうかということ考えた場合に避難道の関係とか、災害があった時に道部あたりが通れなくなった場合を考えると、私は昔の・・・、お金はかかるかもしれないけれども、それはそれで岩科から中川へと通じる道を作るのか、そういうのもいろいろ考えて・・・、ですから企画に期待しています。

町長も先ほど構想ということがありましたけれども、やっぱり自分はこのことをやりたいんだという中で、いま言った町民を集めた方が、構想が出た中で、これはとてもできる仕事じゃないねとか、そういうのを今からやるんでしょうけれども、企画が出たあと・・・。しっかりとそこはやって、また予算等でも盛り込んでもらいたいなと思っています。

そして、安城岬のも関連でちょっと申しますと、私もそこへ傍聴に行って西伊豆町長の話を聞きました。前に町長、あれですね。1市5町でしたか、真ん中あたり、河津あたりだかどこだかに火葬場を造る・・・、火葬場じゃないです・・・、火葬場もそうですけれども、ごみ焼却場もそうかもしれないですけれども、火葬場・・・、あんな構想は今はないみたいですね、そんな話はね。そういう中で西伊豆も困っているわけですよ。困っている中で、また安城に回帰したわけですよ、どうだろうかと・・・。

今あそこは国立公園ですか国定公園ですか、ちょっとわかりませんが。そういうのをクリアしなければならないというようなことが出ていますよ。

そうした中で松崎がある程度・・・、いいところがあれば松崎に乗っかってもいいじゃないかというような話も出ているんですね。580万円くらいですか、今回入っていますけれども一応修理ということですか、そういうのもっと真剣にこれからも考えてもらいたいと思いますよ。その点はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 火葬場に関しては、西伊豆町がはじめ合併特例債でやるうんぬんという話をしたものですから松崎町は参加できないわけですが、特例債でやると・・・。

だけど、下田を中心に下田と南伊豆と河津と東伊豆で協力して火葬場に関してはやろうという話が進んでいて、松崎町もどうですかというような話がございましたので、私たちは西伊豆町と今までやっているわけですから、西伊豆町と相談しながらいきますよというような話をしているわけでございます。

○5番（藤井 要君） まあ、これは予算の関係ですから、ここには入っていないんですけども、また真剣に、これは西伊豆町長の方ともやってもらいたいなと思います。

トレイルの関係、今年・・・、若干聞きましたけれども、10月にトレイルはやるということなので、いつも予算に入っていたのが入ってこなかったというようなことになってはいますけれども、トレイル自体は自分でやれるからこの予算に入っていないというようなことでよろしいですか。

○企画観光課長（山本 公君） 日程の関係は、12月じゃなかったかと思うんですけども、やるのは。

トレイルにつきましては3年ですか、2回目が雪で中止になったというようなことがございまして、一応3年間の中で補助を出していこうということがありました。3年以降は自立をしてくださいというような形の中でやってきていただいているわけでございます。その部分が自立という形の中で、できるということですから、今回補助という形の中では入っていないところでございます。300万円、200万円、100万円でしたかね。そんな形でつけていたと思います。

○5番（藤井 要君） 午前中最後の質問になるかもしれませんが・・・、ということはないですね、まだ早いんですね。間違えました。

○議長（稲葉昭宏君） 時間を気にしないでやってください。

○5番（藤井 要君） 商工費の関係ですね。107ページになりますけれども、19節あたりに負担金、補助及び交付金ということでいろいろ出ているんですけども、私も一般質問でやったんですけども、シャッター通りの解消、商店街の活性化ということでやっているんですけども、まだまだ予算的に・・・、本格的にやる気があるのか。これは商工会の関係もあります。

商工会がやる気があるのかどうかということも出ていますけれども、これはどちらが主導して、どんどん、どんどん町の活性化のためにやるかということは、町と商工会の連携をしていかなければならないということでしょうけれども、予算的に、こういう疲へいしている中で、商工会のそういう面に対する費用の補助が少ない。もちろんやらなければ、これは補助を減らすことはいいわけですよ。ある程度付けて、「こんかい付けたから、お前っちゃったらどうか」と、そういうのもちょっと必要じゃないですか。こういうことをやったらどうかとか、その連携と予算編成についてちょっとお願いしたいと思います。説明の方を。

○企画観光課長（山本 公君） 商工会の関係は、空き店舗の関係を一般質問の方でご質問もあったかなと思います。

いずれにしても、商工会と連携してやっていくということの中で・・・、この中では、新しいものというものは特に付いていないわけですがけれども、商工の関係の予算の中には。

ただ、観光振興費の足湯ですとか手湯ですとか、そういったものの中で、とにかく賑わいというか、循環性を図っていかなければならないということがございます。

商工会の方においても、いま俳句の交流館の形をより有効的に活用していこうというようなことも考えていくということでございますので、それを見ながら、あるいは商工会と今後も連携して、こういうことをやっていきたい・・・。あくまでも、こっちからやるのではなくて、商工会としても当然考えていただかなければならないわけですので、商工会の方と連携した中で、こういうものやっていきたいんだということがあれば、それは補助なりを検討するということもあるかと考えています。

○5番（藤井 要君） 町長、この前、商工会長もやった町長、経験豊かな町長ということをお前は言いましたけれども。本当にシャッター通りを、予算を付けて何とかしてやるとか、お前たちは・・・、今でも部下がいるわけでしょうから、当時のね。そういう人たちにもっと町長、力を発揮してというか・・・、そういう指導力を発揮して、どんどん、どんどんやるようなことがないですか、町長。

町長の先ほどの性格で、依田さんみたいにガンガンやるのと、町長みたいに柔らかくソフトに何々をなでるようにやる町長とちょっと違うんですけども、ちょっとそこら辺ももうちょっと何とかするんだという決意を述べてくださいよ。

○町長（齋藤文彦君） 商工会に関しては、事務局長が替わって何回も話をしてお前たちが「こういうことをやりたい」と言ったら、予算を付けるよと言っているんですが、なかなか商工会としてのいい案が出てこないの、残念に思っているわけですがけれども。今、商工会と観光協会と役場の職員と農協と今度は銀行が入ると思いますがけれども、1か月にいっぺんいろいろな

活性化の会議をやって、今度は議長にも入ってもらいたいなと思っているわけですが、その中でいろいろ話したいと思うわけですが、松崎町として、やっぱり商工会、観光協会は、松崎町の活性化の原動力で両輪ですから、2つがもっと元気にならないと松崎町も元気にならないと思っていますので、本当に叱咤激励しているところでございます。

ただ、商工会が本当に「こういうことをやりたいよ」というようなことが本当に私の部屋に来て、切々と語ってくれるようになればいいなと思っているところですが、今のところ、まだそういうことがありませんので、うまく商工会と話をしながら活性化するためにがんばっていきなと思っていますのでございます。

○5番（藤井 要君） 本当に町長、頼みますよ。町をよくするために・・・、町長の腕にかかっていますから、あと1年半以上あるわけですから、がんばってください。

それで足湯の関係ですが、これはなんか昨日名前は出せませんでしたけれども、足湯の所、200万円位ありますよね。あれは構想的には、本当にそれくらいでできるんですか。

○企画観光課長（山本 公君） 観光振興費の中に200万円ほど取ってあります。総務課長の説明の中でも足湯の整備ですとか、あるいは手湯の整備ということがありますが、いま中瀬邸に簡単な足湯があります。その位置に手湯みたいなものを1か所、それから、新浜コミュニティ通りの広場、ピエロの広場というんですかね、ありますけれども。そこを、いま池みたいになっているところを活用して足湯にしていきたいと、そこまでお客さんの流れを作っていて、商店の方の振興が図られればというようなことで考えているところでございます。

○5番（藤井 要君） これは予算に入っているわけですから、その足湯はもう完全に今年度でできるような格好と考えてよろしいですね。

○企画観光課長（山本 公君） 28年度ですね。この予算で実施をするということです。

○議長（稲葉昭宏君） 暫時休憩します。

（午前 9時52分）

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時00分）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑を続けます。

○2番（渡辺文彦君） 民生費のところの特別会計のところちょっとお伺いしたいんですけど、各項目繰出金が多いわけですが、・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 渡辺君、ページ数を提示してください。

○2番（渡辺文彦君） 79ページになります。すみません。失礼しました。

民生費のところなんですけれども、国民健康保険、後期高齢、介護と3本特別会計の部分があるわけなんですけれども、ここに繰出金が出ているわけなんですけれども、町もだんだん高齢化ということで、この辺の部分がかかなり重荷になってくるかとは思うんですけれども、今後の見通しですね、繰出金の・・・。

今回これで済んでいるんですけれども、これはもうおそらく下がっていくということはないと思うんですけれども、これが今後どんな形で推移していくのか、先の見通しをお伺いしたいと思います。

○健康福祉課長（高木和彦君） 詳細については、また後でやる特別会計の補助金の時にお話しする形になると思いますけれども、こちらの方は一定の・・・、例えば国民健康保険につきましては、所得が少ない方については2割、5割、7割という軽減しています。それについて補てんをしています。

そして、この財源としては、この中に国からの補助ですとか県からの補助がありまして、町の持ち出しというのは、だいたい25パーセントとみていただければ結構です。

同じく後期高齢者の方につきましても、これも4分の3が県の方から助成されているですとか、介護につきましても事務費相当分ですとか、介護につきましても80ページになりますけれどもやっぱり繰出金が出ています。これについては介護費用の12.5パーセントを町でみるというルールになっています。

当然一定の率が決まっているわけですから、介護についても後期高齢者についても国保についても療養費ですとか介護料が増えてくれば、この金額も増えてくるわけなんですけれども。今のところ国保についても介護にしても、実際人口の減少などが影響して給付費がそんなに増えていない状況ですので、当面の間は、この辺は変わらないんじゃないかなと感じています。

○2番（渡辺文彦君） 歳出の中で占める補助費的な分は、今後そんなに大きな変動はみなくてもいいということでもいいわけですかね。

○健康福祉課長（高木和彦君） はい。その他衛生費や民生費で約10億円のお金はありますけれども、その辺は新たにまた違うサービスということになれば、その負担は出てきますけれども。当面の間は同じような・・・、人口が減っているということを考慮すると、横ばいかなとは感じています。

○2番（渡辺文彦君） 広域的なことで質問します。

今度、85ページなんですけれども、賃金のところに臨時雇用の栄養士というのがございます。これは町のいわゆる生活習慣病に対する食事の件に関して、指導して町民の健康を図りたいと

いうことだそうですけれども。たまたま今回私は個人的な理由で栄養士にいろいろ相談する機会が多くて、ちょっと感じることもあるんですけども、その意味で栄養士を選ぶ範囲に対して、この費用をどうのこうのじゃなくて、これを選ばれることはいいと思うんですけども、栄養学に対する概念が大きくいま変わっているそうです。

ですから、この栄養学・・・本当に町に入れていただいても、従来の栄養学ではおそらく対応できない部分があるんだと思います。それを考慮して、そういう適任な方を選任されるようなことをとりあえずお願いしたいと思います。

これは、本当にちょっと私も個人的な・・・、今回自分の病気でいろいろ栄養士と話をして、また自分も勉強している中で、かなりここ数年栄養学に対する考え方が変わっているそうです。その辺に関して、十分な検討をお願いします。

○健康福祉課長（高木和彦君） 確かに健康を維持するためには、特定健診ですとかがん検診をやるだけじゃなくて、そうならないように食事ですとか運動ですとかということに重点を置かなければならないということで、栄養士を雇用することにしました。

この栄養士につきましては、例えば、どこどこを退職して65歳の方とかといいますと、なかなか昔の勉強した内容とは違うと思いますけれども、若い方で、いま管理栄養士になることを目指している方を雇用しようかなと考えています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。
(発言する者なし)

○議長（稲葉昭宏君） では、ここまでにしまして、今度は114ページ、土木費から最後まで質疑を許します。

○6番（福本栄一郎君） ページ数でいきますと、116ページの関係です。土木費の負担金、補助及び交付金、これは、お伺いする程度でいいんですけども、この116ページの伊豆縦貫道建設促進期成同盟会の負担金が5万円ですね。

それから、その下にいきまして河津下田道路及びアクセス道路建設促進期成同盟会、これは負担金ですよ、1万7000円。それから補助金として、伊豆縦貫道西伊豆アクセス道路建設促進期成同盟会5万円、これのいま現在の進捗状況、特に伊豆縦貫道西伊豆アクセス道路建設促進期成同盟会はどういった進行状況で、どういったような状態になっていますか、それを教えてくださいませんか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 議員の今のご質問の3点の会の負担金、補助金でございます。当然伊豆縦貫道の開設絡みの期成同盟会の事務事業の各市町への割当、負担金でございます。

現在、伊豆縦貫道に関しては天城北道路の方が開設し、さらには賀茂郡内では下田地区、河

津地区で現在事業の方が進められているわけでございます。

その辺に関しまして、一刻も早い進展を望む働きかけをする事業活動を現在この3団体で行っているわけでございます。

西伊豆アクセス道路に関しましては、我われの方も負担の方を払っているわけで・・・、補助金という形で払っているわけですが、一緒に伊豆縦貫促進期成同盟会等で乗り合わせで、国交省等に一緒に陳情活動を行っているという形でございます。

ただ予算的には、この同盟組織、協議会等の組織の予算は非常に脆弱でございまして、ほとんど各市町の5万円程度×市町というくらいの予算でやっているわけでございます。ほとんど陳情活動だと思っていただければよろしいかと思えます。

○6番（福本栄一郎君） 伊豆縦貫道の構想は、確か昭和52年頃に縦貫道・・・、いわゆる高規格道路・・・、高速道路じゃなくて高規格道路をつくりましょうとあって、やっと本格的になってきた。かれこれ40年くらいですか。

ですから問題が・・・、一般質問で出ていますけれども、残土処理、町長が壮大な計画があるということで答弁していますけれども。我われ西海岸にとってみれば、確かに伊豆縦貫道・・・、字のとおり、伊豆の背骨へ道路をつくって下田へ抜けるというんですけれども、やはり現実的に、伊豆西海岸、松崎町、西伊豆町、伊豆市の土肥地区ですか・・・、考えるならば、これは伊豆縦貫道ができれば、おそらく落合あたりにインターチェンジができるでしょうけれども、その間・・・、行っているあいだに、ほとんど土肥地区まで行っていると思うんで、車で。キロ数がだいたい同じくらいですから。むしろ我われ西海岸にとってみれば、安心・安全な生活・・・、雇用の面も含めて田方・三島圏がいわゆる通勤圏になる。しかも急病患者も車で行ける。こういったメリットが最大です。しかも西海岸は鉄道もない。船も廃航になってしまった。我われはもう自家用車・・・定期バスもありますけれども、それを頼るしかない、まさに国道136号線が生命線です。

人口減少を食い止めるのもその道路一本にかかっていると言っても過言ではないと私は思うんです。ですから、これを強力に推進してもらいたいと思うんです。ですから、その辺は今後の活動内容ですか、この辺をまた・・・、ありましたならば、教えてくださいませんか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 伊豆縦貫建設期成同盟会を中心として一刻も早く伊豆縦貫道の開通を目指すように一生懸命陳情活動を行っていくと思います。さらには、アクセスの関係、松崎町にとっては下田松崎線等があるわけでございますけれども、その辺も町独自で県道の改良等も積極的にお願いをしていく考えでございます。

いずれにしても、一刻も早い開通を目指すように各この団体の中で互いに、各市町と協働で

陳情活動、要望活動を行って、一刻も早い開通をお願いするようにがんばっていききたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 伊豆縦貫道は、ぼくらのところは船原峠がまわりくねっているわけですが、船原バイパスと北天城道路からくる下船原バイパス、これができると本当に西伊豆は近くなりますので、本当に西伊豆町と連携して、ここは一生懸命お願いしているところですから、一日も早く開通できるようにお願いしていききたいなと思っています。

○6番（福本栄一郎君） ですからね、土肥の今やっている・・・、何ですかドライブインがありますよね、あの牛乳屋さんのところ。あそこも何年前ですか、6～7年、もっと10年くらいですか、あそこが崩れてもうかなり通行止めになったわけですよね。迂回路もままならないような状態・・・、そういったことがあるもんですから、アクセス道路を・・・、グリーンヒルですか、ドライブインがあります。そこでもう県としては終わりですよということは避けてもらいたいです。

私が言っているのは、この道路の通りにですね。伊豆縦貫道の背骨から西海岸の海が見えるところまでやってもらいたい。それを強力に進めてもらいたいということをお願いします。

もし町長の考えがありましたらば、お願いします。

○町長（齋藤文彦君） 本当に西伊豆にとって必要だと思いますので、議員の意見に賛成ですの
で・・・。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○1番（伴 高志君） 131 ページ、ちょっと基本的なことで申し訳ないんですが、この姉妹都市派遣というのがありますけれど、松崎町というのは、姉妹都市というのは海外もあるんですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） ここでいう姉妹都市交流の関係ですけど、松崎町の姉妹都市は現在北海道の帯広市と長野県松本市の安曇地区ですね。そちらとの交流になっています。具体的には、帯広市につきましては小学6年生の交流です。お互いに行き来しています。安曇地区につきましては中学2年生がそれぞれ夏休みに行き来する、そういった交流事業になっています。

○議長（稲葉昭宏君） 伴君、質問するならちゃんと手を挙げて・・・。

○1番（伴 高志君） 昨日も少し触れようと思って・・・、総括のところでもし・・・、町長のお話とか・・・、松崎町は決して町長の交際費だとかが多くないというのはあると思うんですけど、やっぱりこれから何と言うんですか・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 伴君、ページ数を明示してください。そして、もし今の114 ページから土木費まででなければ、総括でやってください。

○5番（藤井 要君） 教育関係で伺いたいと思います。ページ数は127になりますけれども、今回、教育費が5億6400万円ほど予算に入っているわけですが、なんか2016教育マイドリームだとか何だとかということで、この予算について、こういうをつくったからには教育長もそれなりのいろいろな夢があると思うんですよ。

こういう予算の中でやっていきたいよとか、私はこういう予算をやったのは、いま言った、こういう夢があるとか、そういうのをちょっと答えてもらいたいということと、そして130ページになりますけれども、15節、松崎町立松崎幼稚園建設工事2億9500万円ほど入っていますね。これを聖和保育園が総工費で設計から入れまして、2億2700万円でだいたいできているわけですよ。

うちのところが、これは2億9500万円ですが、工事費だとかいろいろ関係を入れまして3億2000～3000万円かかるわけじゃないですか、約1億円の差が出るわけですよ。聖和保育園と松崎町と。片一方はゼロ歳から5歳まで、うちの方は3歳からということになるわけですが、先生の数だって10人と8人くらいですか、そういう面を考えて、よっぽどこれは単価的に高いものを造るとかじゃなければ、1億円の差が出てこないと思うんですよ。

あと例えば100年だとか、200年までそういう構想があるのかということと・・・、それはまた答えてくれると思いますけれども、こういう人口が少なくなる中で1億円の差をもって松崎町立幼稚園ができるということに対して、予算的にちょっとオーバーじゃないかというようなことも考えるわけですが、その点をお答えできたらお願いしたいと思います。

○教育長（山本正子君） ちょっと夢物語のようになるかもしれませんが聞いてください。

家庭・学校・地域が連携して、子どもたちが松崎に生まれ、松崎の園や学校で学んで、松崎で暮らしてよかったという思いを原風景として育むような心の充実した心に残る教育を展開したいと思っています。

子どもたちが一旦松崎を離れるようなことがあっても、松崎で暮らした思い出を思い出して、また松崎に貢献してくれるような、そういう息の長い教育の循環を目指していきたいと思っています。

例に挙げていただいた新規の事業「松崎マイドリーム2016」についてですが、今のような思いを、子どもたちの思いをまちづくりにつなぐ場として考えています。

大人が子どもたちのそういう発想や着想に耳を傾けることによって、また自分のまちづくりへの思いを子どもなりに語ることによって、郷土への愛着をつなぐ場になればいいと考えています。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 幼稚園の建設につきましては、聖和保育園との比較とい

うことをごさいますけれども、まず幼稚園と保育園とは根本的に違うところがございまして、幼稚園につきましては設置基準等もございます。その中で施設の設置基準それから保育園の設置基準とをみますと、施設基準で備えなければならないような設備がございます。これは法律等で決められているものですが、幼稚園につきましては保育室ですね。遊戯室、職員室、保健室、便所、飲料水用設備、手洗い設備、足洗い設備、運動場。それに対して保育園が保育室、遊戯室、医務室、便所、調理室、遊戯場を備えなければならない設備ということで謳ってあります。

幼稚園はそれ以外に、備えるように努める設備ということで放送設備とか映写設備、水遊び場、幼児清浄用設備、給食施設、会議室というような・・・、これにつきましては保育園の方には明記はないと思います。

そういったことで、ちょっと若干幼稚園と保育園との法律の関係、文科省と厚労省との違いがあるわけですが、そういった違いがあるということをまずご理解いただきたいと思えます。

その上で、幼稚園につきましては、さらに文科省が出しています文科省の大臣官房文教施設企画部というところで、幼稚園の施設整備指針というのが出ています。

幼稚園を建てるについて配慮してくださいというような指針ですね。そういったものも出ていまして、園舎計画で保育室は園具、遊具等を弾力的に配置できる面積、形状とすることとか、遊戯室につきましては、園児が安全にのびのびと活動できる面積、形状とすることとか、廊下は安全な幅、形状とすることというような・・・、さらに仕上げに関して、内部仕上げとか外部仕上げとかがございまして、内部仕上げにつきましては壁、天井は十分防火性のある材質を使用することとか、幼児の健康と快適性を確保するため室内空気を汚染する化学物質の発生のない、または少ない建材を使用すること。

外部仕上げにつきましては、地域の歴史及び伝統、地域の景観、風土等と調和し、かつ地域社会の核として風格を備えるよう設計することとか、安全面では設計地震力を割増して設計する等、耐力計算に余力をもたせた設計をする。これはあくまでも抜粋でございまして、実際は50数ページの指針がございます。

こういったもの、指針に沿ったことで、いろいろな材料等を選択させていただいたということもございます。さらに、決定的に聖和との違いということですが、いわゆる公共の建物と民間の建物との違いだと思えるわけですが、これは工事の設計等をされた方はわかると思えるわけですが、工事の直接工事費に対して共通仮設費という・・・、いわゆる諸経費がございます。共通仮設費ですか、そういうのがあります。それが公共の場合は、公共建築物の積算

基準ですか、これは国土交通省が出しているものですが、それに基づいて諸経費率を積算します。民間につきましては、それはしぼりがないようです。

ですから、相当の開きが実際は出てくるというふうに聞いています。具体的に言いますと、ちょっと時間がかかりますので、だいたい概要としては、そのようなことで差が出ているんじゃないかと・・・、ただ物自体が同じものではありませんから、単純に数字だけを比較するのもちょっとどうかなと私は思いますけれども。概要としては、幼稚園の建設については、そのような方向でつくっているところでございます。

○5番（藤井 要君） 今の話を聞いていまして、民間と公との違いということで十分わかりました。ありがとうございます。

町長、預かっているのが、聖和保育園にしても町の町民の子どもですよね。やっぱり壁、天井でもいろいろありましたけれども、ある程度町というか、そういうのに沿ってやらなければ、公平性がないじゃないですか。そういう点は、町長、どう考えますか。

設計上のそういう法律的になければならないこういうことというのはありますけれども、やっぱり同じ環境で生活するというか、受けるのにちょっと差があるような気もしますけれども、町長、その点はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 松崎の同じ子どもですから、そういう差をつけるのはあれですけども、やっぱり私は幼稚園を建てる時に、今、課長が詳しい説明をしたわけですけども、やっぱりなまこ壁を使ってくれと、壁は変なのを使わないで珪藻土を使ってくださいと、それで、松崎の子どもが集う所だから、松崎の材木を一部でもいいから使ってくれというようなことで非常に高くなったところがあると思うわけですけども、ただ、保育園と幼稚園と差別するわけはありませんので、ただ、幼稚園に関しては私の意見をそう言ったところでございます。

○5番（藤井 要君） どんどん、どんどんと子どもたちも少なくなっていく中で、有効にこれからも活用できるように、松崎幼稚園の方に人がどんどん集まるようなことで、がんばってもらいたいと思います。

先ほど教育長が答えてくれましたけれども、いろいろ松崎のマイドリームと言ったらあれでしょうけれども、そういう中で今度延長保育じゃないですけども、なんかボランティアの方ですか、そういう児童館とか、そういうところで人も来てちゃんとやってくれるというようなこともこれの中に入っていますけれども、やっぱり将来的に人口を増やすのにも、やっぱり子どもたちがいなければ、その父兄の方をどんどん呼んで、新しい子どもたちが生まれてくることを願うということになると、やっぱり教育が必要だと思います。

そういう意味で、教育にはお金をかけ過ぎるということは、極端なことですけどもないと

思うんですよ。そういう面で、いろいろ父兄の方とも町民の方とも話ながら、しっかりとやっ
てもらいたいなと思っています。決意を・・・、もしあれでしたら・・・。

○教育長（山本正子君） 今、ご指摘いただいたように英知を結集して、小さくまとまらないで
情報を収集して、教育格差が生まれないようにやっていきたいと思います。

○2番（渡辺文彦君） 幼稚園のことについて私もお伺いしたいと思います。

この町の教育施設に対しての検討委員会があると思うんですけども、ここでこの数字を提
示して、いろんな議論がされたかと思うんですけども、その辺の経過・・・。この施設は何
人を・・・、将来的にどんかひの人数を予定して造られるものなのか。この辺、2点を取りあえ
ずお伺いしたいと思いますけれど・・・。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 教育施設等整備検討委員会につきましては、施設の整備
とか統廃合についての諮問機関でございまして、整備方針がもう決まっているということで26
年度に答申をいただきまして、それから27年の3月に基本設計等のこういう概要を説明してい
ます。設計書の詳しい金額というのは特に委員会では提示していません。

そして、定員ということですけど、これはあくまでも幼稚園の管理規則がございまして。そ
れには30人以下と書いてあります。ただ、実際は、それは現状では現実離れしていますから、
この保育室の広さはだいたい20人くらいを想定しています。

（渡辺議員「全体でですか」と呼ぶ）

○教育委員会事務局長（石田正志君） いえ、1部屋です。3学級ですから1学級20人位の広さ
ということで、幼稚園の場合は部屋の基準というのはございませぬ。あくまで、全体の基準が
あります。3学級の場合は設置基準ですか、420㎡を上回らなければならないことになっていま
す、建物全体ですね。部屋ごとの面積というのは、保育園の場合は3歳児以上は確か1人1.98
㎡とかというのがあると思いますけれども・・・。そういうのはないんですけども参考にさせ
ていただいて、1部屋20人とみて2㎡、40㎡、それ以外に柵とかができますから、子どもたち
も動き回りますから、だいたい・・・、建物全体のバランスもあることから、実質50㎡くらいの
部屋になっています。

○2番（渡辺文彦君） 延べ面積は、いま予定でだいたいどんかひになっているんですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 556㎡ですね。

○2番（渡辺文彦君） 今、保育園と違って幼稚園は教室の面積の制限、しぼりがないみたいな
話をされましたけれど。ちなみに聖和保育園の場合は、80人を想定してあの建物を造られたそ
うです。延べ面積が690です。

幼稚園の場合は20ずつだとして60名、それで560ですから、そんなに差はないのかなと思

うんですけれども。その中で、いろんな・・・、建物ですから、こだわればいくらでもお金はかかっていくと思うわけですが、そういうこだわりがある中でも1億円・・・、その公と民間の差があるとしても、ちょっと差があり過ぎるように思います。

その差を、また後日で結構ですから民間と公が・・・、そこに差があるという数字的なものを提示していただきたいと思います。よろしいですか、それは。

○議長（稲葉昭宏君） 資料請求を議会の方からお願いしておきます。

教育委員会事務局長、よろしく申し上げます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○6番（福本栄一郎君） ページ数が118ページで、報償費、新港湾利用検討委員会委員19万3000円、これは具体的にどういったことをやるのかということで、いま現在、現状を見ていますと、なんか船が入っていないくて、観光客の散策場所あるいは釣堀みたいになっていますけれども、これは、今後の将来的な見通し、これをお伺いします。

それから、私の・・・、見ているんですけれども、那賀川水系河口周辺治水対策委員会というのが見当たらないですけれども。私もこれは・・・、昨日ですか、昨日の補正・・・、それから私の一般質問ですけれども・・・、なぜかと言いますと、松崎町津波対策検討委員会松崎地区協議会が2月の段階で第4回を終わっています。これは、土木事務所の予定では今月に第5回をやる予定です。

年度内は無理としても、だいたい結論がみえてくるのかなということに絡めまして、この那賀河口水門・・・、津波対策、洪水対策の委員会の報酬がないんですけれども、これがないというのは、どういった理由かなと思いますけれども、その辺、明確な答弁をお願いします。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） はじめに、港湾利用検討会に関してでございます。こちらについては、新港湾の利用に関して様々な利活用について検討する委員会でございます。今年は3回分を予定しています。ただ、昨年も具体的な事案等が発生しなかった関係がありまして、実際には会合は開かれていませんが、いずれにしても新港湾の利用に関して様々な事案等が出ましたら、委員会にかけて、諮って、今後の様々な協議をやっていきたいと思っています。

それから、那賀川河口に関してでございますけれども、現在松崎地区で津波対策等に関しての協議があるわけでございます。その辺の協議の方は、まだまだ結論づけられていないことはもう昨日以降の議論の中でも私どもの方で話していたわけでございます。

今回その辺の議論が・・・、結論がまだ出ていないという関係があるもので、今回は、とりあえず、当初予算の段階ではまだ見通しが立たないという関係があったものですから、今回当初予算の中には外させていただきましたけれども。最終的に協議会等その他諸々の津波対策の議

論が進展した場合においては、必要であれば補正予算等で、この委員会の開催を含めた予算取りをしていくような考え方をもっています。

- 6番（福本栄一郎君） まず新港湾の関係ですけれども、莫大な、松崎町としては負担金を払っているわけですね、着工から・・・。構想から完成までかなりの年数を要して、やっとこで来た。その時の当初の目的はフェリーボートを着岸させる・・・、かたや伊豆市の土肥は県道223号線ですか、海の上を・・・、誘客を図っている。そういった面で積極的な営業活動、観光客の誘客・・・、清水港には世界最大ですか、クィーンエリザベス号とか、いろんな客船が・・・、静岡市長もすごいやる気できています。豪華客船は着岸できませんけども、少なくとも2000トンクラスの船は着岸できると思うんです。とりあえずフェリーとか・・・、そういった誘客を図るために・・・、単なる宝の持ち腐れじゃあ・・・、これは納税者の人たちも絶えずあそこを見ていると思うんです。西伊豆方面、田方方面に行くにも必ず・・・、一本道しかないですから。新港湾、どうなっているでしょう。これを積極的に展開していく、宝の持ち腐れであってははいけないと私は思うんです。その辺の展望をふまえて、今後の対応のビジョンをお聞かせ願えませんか。

それから津波対策の協議会ですけれども、平成27年度では49万3000円ですか、全部流しました。これを同時に、じゃあ、県が決まるまでやると、この新年度当初予算ですよ。当初予算、1年間の松崎の方針、指針を決める教科書じゃないですか。それを落としまして・・・、ということは、下駄を全部預けたということですか。全くこれは松崎地区のすごい問題ですよ。最高クラスの問題だと思うんです。津波対策は人命救助で、これはいいです。生命財産を守るのは。

それについて、松崎の浜が・・・、どうするか、こうするか、最重要問題だと思うんですよ、これは。水門を含めて・・・。それを県でお願いしたから、もういい・・・。わが町として、なんでないですか。もうどうせ県がやるからいいじゃ。そういった安易な考えであってははいけないと思うんです。これは当初予算です。県が結論が出ましたから、じゃあ、補正予算・・・。補正予算になじむ性格のものですか。その辺はどうですか。

- 産業建設課長（斉藤昌幸君） 新港湾の利用検討ですけれども、その委員会活動とは別として、いわゆる新港湾の利活用の問題で、今後様ざまな形で誘客に関する模索を我わればかりじゃなく、町長を含めて町全体で考えていかなければならないと思いますので、一生懸命考えていきたいと思います。

続いて、那賀川河口の関係でございますけれども、当初予算で外したのは何事かということでございますけれども。先ほども申し上げましたとおり、まだまだ協議会の中で結論がつけられないということでありまして、それに対して治水対策の方に案件として持ち上げるべき事案

がまだまだ未確定な段階ですので、今回外したということでございます。

ただ、議員がおっしゃっているとおり、県があらかじめ整備ありきでというふうにお考えかと思えますけれども、我われとしましては協議会の中でしないこともあるし、する場合はどういう形でやるか、いずれにしても住民が中心となった協議会の中で、その整備のあり方について考えるのが・・・、住民が主役となって協議を進めていくのが本来でございます。

県は、それに対してのただの実行者でございます。そういう認識で我われの方は考えています。その上で住民の意思、方針等が決まった段階で、我われとしましては、いわゆるパブリックコメント的な面も含めて、治水対策委員会の方に持ち上げたいと思いますので、その時点で、予算取りをした上でいきたいという考えで、今回は誠に申し訳ございませんが、当初予算の段階では一旦外させてもらったということで、いわゆる協議会とのスケジュールの絡みで外させてもらったということで理解いただきたいと思います。

○6番（福本栄一郎君） 新港湾の方は、ですから引き続き・・・、今よく出ているでしょう、インバウンド・・・、インバウンド対策、海外から・・・、東南アジアくらいからお客を引っ張る・・・、それは・・・、繰り返しますけれども、熱海市長とか、静岡市長、もう積極的に打って出ています。もちろん向こうは港湾、ましてや国際港ですから、清水港は。大型客船が接岸できる。そうじゃなくても行政は継続ということを行っているでしょう、絶えず。今回だめだから、もうだめ、あきらめました。あれは忘れてください、新港湾は。この考えじゃ、もう松崎町は発展するわけないでしょう。積極的に打って、無から、ゼロからスタートすればいいじゃないですか。これは行政の継続性じゃないですか。莫大な負担金を払っているんですよ。この辺をまた、もう一度答弁をお願いします。

それから、那賀川水系河口周辺治水対策委員会の報酬はなしと・・・。これは、だから県がやるじゃなくて、ここに条例であるじゃないですか。「委員会は、次の各号に関する調査、町長に対する意見の具申並びに町長から諮問のあった場合の答申に関する事項を行う。（1）洪水対策（2）津波対策（3）環境対策」あるじゃないですか。

これは一番・・・、三浦地区は漁港管理区域だから別としましても、松崎港湾・・・、これはなんで出さないですか、報償を。治水対策委員会の報償費を。その辺の考え方、町政に対する取り組み姿勢です。県があるからいいじゃ。町は追っかけていけばいいじゃ。これじゃしょうないじゃないですか。予算の組み方ですよ、これは。金額とすれば、ごくごくもう無視してもいいようなパーセンテージですけども、そういったもんじゃないですか。行政の取り組み方、予算の編成の仕方・・・、もうすごい喫緊の問題ですよ、これは。松崎町民にしてみれば。しかも津波対策・・・、今日が東北大震災5年でしょう、午後2時46分。こういった生命財産を守る

ためには、必要なことについて水門とタイアップして、県は県でいいじゃないですか、津波対策検討委員会・・・。メンバーはほとんど同じになるでしょうけれども。そこを・・・、なぜこの当初予算で盛らなかったか。単なるミスあるいは県がやるからいいじゃ、そういった安易な関係で、この37億5000万円の予算の・・・、当初予算を・・・、よく編成できたかな・・・。その辺をお願いします。もう一度。

○町長（齋藤文彦君） 新港湾に対して答えたいと思います。

一時はカーフェリーが2隻体制になって、また御前崎の石原市長さんとか、牧之原の市長さんも何回も松崎を訪れて、それなりにいい感じになってきたのかなというような時期もあったわけですが、このようなことになってしまって・・・。港はちゃんとあるわけですが、本当にいま非常に厳しいと思っているわけですが、福本議員が言うように、これはやっぱり前向きに活用しなければいかんなどと思っていますので、前向きに活用するよう努力していきたいなと思っています。

あとは課長の方から答えます。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 治水対策の関係でございますけれども、先ほども申し上げましたとおり、やはり協議会の中で住民が主体となって協議をしているわけでございます。その中でやはり今現在もやっているわけですが、これからもやっぱり最終的な結論というんですか、方向というのは、なかなか詰まらないというか、時間がかかるんじゃないだろうかということもあるわけでございます。その上で今回は当初予算の段階で、本来でしたら、上げておくべきであったというご指摘があるかもしれませんが、時間がかかるだろうという想定のもとで、今回外さしてもらったわけでございますけれども。ただ我われの方としても、一定の方向性が見出せた段階では、直ちに補正予算で組むことだけはお約束するというご理解いただけませんか。

○議長（稲葉昭宏君） 暫時休憩します。

（午前10時45分）

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時00分）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑を続けます。

先ほど教育委員会事務局長の方に資料提供を要請しましたが、その件につきまして、発言を許します。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 先ほどの幼稚園と保育園の建設費の数字の比較というようにございましてけれど、保育園は既に実施して事業も終わっていますけれど、幼稚園の場合は、これから入札を控えていまして、数字を事前に出すということになりますと、やはり不適切、入札前の数字を公表するということになりますので、ちょっと今回そういった資料の提出はご勘弁いただきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） そういうことで、渡辺君、了承してください。

○2番（渡辺文彦君） 3億2000万円の積算根拠というのは、どこから出てくるんですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） それは委託業者がいろいろな積算基準とか、そういったものに基づきまして積算しています。根拠というのは、いろいろ公共機関が出している数字とか、市場単価、それにはないものは業者から見積等を取って、その上でだいたい見積りを取るとすれば5社の平均というようなことです。

民間の場合は、そういったことの縛りが無いということでございます。そういった積算の仕方をしているということでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 114ページ土木費から最後までをやりましたから、これより総括の質疑に入ります。

○7番（佐藤作行君） ページ数は、87ページの子ども医療費助成、2点目が143ページ、学校給食の関係です。2点ちょっとお伺いします。

今、町でいきますと、西伊豆町との保育料それから幼稚園の授業料それから高校生の医療費それから給食費、これが西伊豆町は無料化したわけなんです、1点目に、町長、そこらはこの予算には載っていないんですが、来年以降、どんな考え方でいくのかということが1点です。

それから、もう1点は、いま挙げた各々の試算ですね。松崎町で実施した場合、どのくらいお金がかかるのかということをお伺いしたいと思っております。お願いします。

○教育委員会事務局長（石田正志君） まず幼稚園の関係でございますけれど、給食費ですけれど来年入園予定者を45人とみています。その方々の分を全額無料にしますと、だいたい170万円位が支出になります。

そして授業料の関係ですけれど、実質的には多子世帯軽減ということで減免されている方も実際にいるわけですが、仮に全員授業料4000円ということで計算した場合です。全員が同じ金額という計算をした場合は・・・。

すみません。まず先に、給食費は12か月分です。

それから授業料は12か月分ですけれど、これが4000円の45人の12か月ですから、198万200円、約200万円ですね。そうしますと370万円位。200万円が収入として入らず、170万円

が補助として支出するという、そういった数字が出ています。

これは、あくまで幼稚園だけでございます。

○健康福祉課長（高木和彦君） では、保育の方は健康福祉課の方で担当していますので、歳入の方で保育料 1478 万 2000 円計上しています。これが軽減される分になると思います。

あと給食費につきましては、保育料の中に入っていて基本的には月 800 円で 80 人で 12 か月になりますから、だいたい 150 万円程度だと思います。

○町長（齋藤文彦君） これは、いろいろ内部で・・・、まだ時間がありますので検討してみたいなと思っています。周りがみんなそういうふうになってくるということがありますので、松崎町としてもどういうふうにするかということを実際に内部で考えてみたいと思います。

○健康福祉課長（高木和彦君） 87 ページの子ども医療についての話がありましたけれども、確かに西伊豆町さんは高校生までということで、松崎町は中学までです。ただ、県内でも小学校までというところもありますし、特に松崎町がほかから比べて弱いということはないとは思いますが。

○7 番（佐藤作行君） 今、課長が言われたように、静岡県をみた場合、西伊豆町だけ突出しているというような感じになっています。しかし、清水町の去年の 10 月ですか、町長選がありました、それで、今の山本町長と、それから対抗馬の鈴木さんという方が一騎打ちで町長選をやったわけなんです、現在の山本町長は公約に高校生の無料化というのを出しまして、3 月の定例議会へ提出するというのを明言しています。そこらもありますので、これは、静岡県の中でも西伊豆が進んでいるよということは私も承知しています。

ただ、私がいま質問したのは、もしやった場合、どのくらいのお金がかかるのかというような概算でいいんですが、教えていただきたいということです。

○健康福祉課長（高木和彦君） 今、1440 万円計上してあります。この人数で全体を割って、それで高校生の数を出せば数字的には出ると思います。

また高校生になりますと、けがはありますけれども病気というのはあまり・・・、小さい子どもより少ないわけですから、おそらく推定すると、この 1140 万円が 1600 万円とか、その程度になるのではないかなと推測されます。

（佐藤議員「わかりました」と呼ぶ）

○町長（齋藤文彦君） 一度決めたら、なかなか下げるといふわけには・・・、なくするといふわけにはいかないことがありますので、本当に内部で時間がありますので、ちょっと検討してみたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○5番（藤井 要君） 今の関連でお願いしますけれども、先ほど保育園、幼稚園の問題で数字が出たわけですが、高校生から・先ほどの医療費無料、授業料無料、給食費無料、バス代が無料になった場合に、西伊豆のところはだいたい年間3000万円位だと伺っていましたけれども、そういうような、そこまで合算するとだいたいどのくらいの予算が必要になるのか、わからないですか。

○健康福祉課長（高木和彦君） この数字の集計については、ちょっと時間をいただければ、できる数字だと思います。

財政の課長補佐が来ていますけれども、時間があれば補佐の方でもそろばんをやってもらうことは可能でしょうか。

○総務課長（山本秀樹君） 今回、医療費ですとか給食代とか無料化になってどのくらいかかるのかなというのは、荒い計算ですが、だいたい2500万円くらいかなというふうに我われの方は踏んでいます。

そこは、予算上できるかできないかと言えば、数字の上では可能な数字になります。ただ、例えば給食費の未払いの問題とか給食費に対する考え方、いろいろいま社会でも問題になっていますけれども、その辺の関係であるとか保育制度それから給食、幼稚園の授業料の関係で、いま全国がそういう一定の負担をしてもらうという制度のもとで成り立っているものですから、その制度自体を崩すような施策にもなりますのでその辺については、慎重な検討を続けて対応を考えていくというふうにした方がいいのかなと思います。

○5番（藤井 要君） 私はやれと言っているんじゃないので、だいたいどれくらいかかるかということで、西伊豆は3000ちょっとくらいになるのかなと・、うち・、人数的に言ったら松崎はバス代とかいろいろ含めて、なんか西伊豆に比べて低く・、あそこは賀茂もあるから人数が多いのかな、まだ。

でも2500万円くらいじゃあ、あれですよ、そんなには・、本当にバス代から全て入れて・、だったら、安いものだと思うけれども・。

○総務課長（山本秀樹君） バス代はこの荒い計算の中に入れてないです。給食費だとか、授業料、それから医療費でだいたいこのくらいかなという先ほど福祉の課長が言いましたけれども、そういうの見込んで、だいたい2500万円位かなと我われの方も荒く計算をした中ですからその中で通学費とか、そういうものは見込んでいないので、そうするとまた少し高くなるのかもしれません。

○5番（藤井 要君） 参考資料ということで、また後日、なんか議会の全員協議会とか、そういう時にお示ししてくれば、今後の中で参考になると思いますので、できたら、資料提

供をお願いしたいと思います。以上です。

○議長（稲葉昭宏君） 資料提供の方をよろしく申し上げます。よろしいですか。

（総務課長「バス代も入れてということですか」と呼ぶ）

（藤井議員「バス代も全て入れてどのくらいになるか」と呼ぶ）

○議長（稲葉昭宏君） よろしく申し上げます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○6番（福本栄一郎君） 総括ということですから総括質問で。ページは36ページ、ふるさと応援寄附金3100万円、これに対応するのが51ページの報償費、ふるさと納税特典品1200万円、あとコンピュータとかなんかも、臨時職員になりますけれども。いわゆるいろんな財源で・・・、民間もそうですけれどもお金がなければ何も仕事ができない。夢ばかり追っている。いわゆるふるさと納税が、国が新たな・・・、税法を改正しまして、ふるさと創生・・・特別に作ってくれたんです。それで、なおかつこれが、お金がいっぱいきたから、地方交付税に響くかといえ、これは響かないですよ、総務課長。

減額・・・、あんまりふるさと納税がきたから、じゃあ、あなたの町は地方交付税を減額しますということはないと思うんです、ないですね。

そうしてみると、わが町は当初予算37億5700万円。それに対する依存財源が65.3パーセント、自主財源というのが、これは34.7パーセントですか、だいたい依存財源が6割5分という形で・・・。かといって、新たな町税の税法を作ることはできないと思うんです。ですから、このふるさと納税だったら新たな税源・・・、国が許してくれている税金で対処しなければならぬ。これによって隣の町は1月の半ばがもう・・・、約10億近い、南伊豆町も4億を突破していると思います。年度末になると・・・。

わが町は1月現在では2100万円位ですか・・・、こういった新たな税源が出てきている。これによって町の新たな財源が生み出されてくる。それで町の皆さんの要望に応えます。と言うことはお金がない・・・。

お母さん方も・・・、前に言いましたけれども隣の西伊豆町へと住所を移そうかな・・・、保育園がただ、給食費もただ、こういった町同士の格差が出てくる。租@

そこでお伺いしますけれども、わが町は当初予算でいきますと、3100万円しか収入を見込んでいない。この辺の新たな・・・、松崎にあるじゃないですか、地域おこし協力隊を4名から6名にする。やろうじゃ協議会へと補助金を出してつくっていますよね。

その辺でお金を稼ぐ算段というビジョンはないでしょうか、お伺いします。

○企画観光課長（山本 公君） ふるさと納税については、3000万円今回盛らせていただきました

た。27年度が1000万円で補正が2000万円ということで、一緒の金額になっていますけれども、これは行政報告の中でもさせていただきましたが、まだまだ魅力ある品目が足りないという部分がありますので、それは業者さん、地元のそういう方々と話した中で、魅力ある商品を増やしていくような形で、してまいりたいと思います。

それから、併せて姉妹都市との連携ですとか、あるいは関連ある町との連携の中で商品を提供したり、提供いただいたりというような場面もあるのかなと思っていますけれども。先ほどありましたように西伊豆町のお話ですとか南伊豆町のお話ですとか、何億円という金額もあるわけですので、そのあたりにつきましては地元の皆さんとも話をしながら、できるだけ品目を多くしていきたいなど。それによって地域の産業の部分の振興も図られる、あるいは財源の確保にもなるのではないかなと思います。

なかなかふるさと納税が過熱してしまっていて、本来の趣旨からちょっと外れているような場面もあるわけですが、それであっても、こういう制度ということであるものですから、活用した中でまちづくりに財源として充てていきたいと考えています。

○6番（福本栄一郎君） やっぱり国でせっかく金のなる木をつくってくれた。これを当然・・・、果実をもらう・・・、果実をもらうには肥培管理、肥料をくれたり、剪定しなければ・・・、その辺の夢です。

ですから町長が言いましたよね。物産展ですか農協の・・・・。素晴らしいみかんがもう売り切れになった。しいたけとわさび・・・。この辺のやっぱり農業振興を兼ねて・・・、その辺の夢をもう一度お聞かせください。

あまりにも隣の町と、西伊豆町さんとうちと隣の南伊豆町さんが・・・、あまりに町の格差がもうついています。そうすると、うちの方はどんどん、どんどん人口も減ってくる。負のスパイラルに入ってくる。これは入るとなかなか脱皮できないと思うんです。

隣へと・・・、ですから、先ほどお母さん方は隣へと住所を移そうかな・・・。これは冗談半分でしょうけれども本当に真意があるんです。ますます住みづらくなっている。私は、それを一番恐れているんです。いわゆる人口減・・・、魅力のあるまちづくり・・・、その辺の夢を・・・、ありましたらばお聞かせください。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど農業祭のことを話したわけですが、本当に農業祭に出品されているかんきつ類とかしいたけとかわさびを見て、なんでこれがふるさと納税に出てくれないのかなと、いろいろ話をしたわけですが、松崎はまだ余力があると思いますので、もうちょっと町の皆さんに協力をお願いして、ちゃんとした体制を作ってやっていきたいと思っています。

この前一般質問でも答えましたけれども、松崎町は非常に高血圧で医療費がかかるわけで、それを本当に健康寿命を維持すれば5億円くらいあるわけですからけれども、3億位返ってくる。

また、まつぎ町がなんだかんだ言われていますけれども、まつぎ町は3億円位稼ぐわけで、そのお金が町の中に流れているわけで本当に小さな企業誘致だと思っていますので。それは、町、町でいろいろ特徴がありますけれども、松崎町は松崎町の特徴を出して生き残るためにがんばっていくということでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○2番（渡辺文彦君） ちょっと総括で、細かいことをお伺いしたいと思います。

95 ページです。農業委員会の経費なんですけれども、このたび、この春から農地利用最適化推進委員が設置されることになっています。人数は4名だと思いますけれども、その4名に対して54万8000円が措置されています。

一方、農業委員は12名になると思うんですけれども102万2000円になっています。4名で50万円、12名で100万円。この差がよくみえてこないんですけれども、この辺の説明を・・・。

農地利用最適化委員がどういう業務をして、これだけのお金をもらうのか、その仕事の内容をふまえて説明をお願いいたします。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） はじめに最適化委員の報酬の関係でございます。4名で54万円でございますけれど、こちらの方は月2回の12月分、かける4名ということで計算をしています。

月2回の活動につきましては、最適化推進委員の活動の趣旨であります農用地の有効利用を図るための積極的な活動をしてくださいと・・・、それは発足したばかりですので、どれくらいかかるかわかりませんが月2回程度、さらには随時の農業委員会への出席等も勘案して月2回程度として、今年度はそういう形で算定をしています。

29年度以降、28年度の実績に基づいて、またその辺の計算の方は変わってくるのではないかと思います。

農業委員に関しましては、12名の月12回の委員会の出席、さらには研修等の出張の関係の費用も含めて102万2000円ということで計算をしています。

○2番（渡辺文彦君） ついでにですけれども、今の報酬の下に賃金がございます。そこに臨時雇賃金というのがございまして、農地利用調整員というのがございます。ここに81万円ほど措置されているわけですからけれども、この方と最適化推進委員との仕事のバッティングがあるような気がするんですけれど、この臨時雇用は必要でしょうか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） それについては、耕作放棄地対策事業ということで、国の事業

の絡みがあるわけでございます。この臨時賃金でございますけれども、農用地の利用状況の調査、農地の耕作放棄地等の関係について、半年間をかけて農地の状況を調査してもらっているわけです。

そのデータに基づいて、農地利用最適化推進委員さんが当然そのデータを有効利用して、耕作放棄地がここにあるから、この耕作放棄地を再生利用するためにはどうすればいいのか。また、誰かが使ってくれないかと・・・、そういうのが最適化推進委員の仕事で、その臨時雇の方は、そのデータ作成と調査の費用というふうに解釈していただければよろしいかと思えます。

ちなみに、この臨時雇用、農地利用調整員の関係については、国庫補助事業対象でございます。

○2番（渡辺文彦君） 今の説明ですと、農地最適化推進委員と臨時雇用で使われる方と、おそらく同じ仕事だと・・・、ぼくは今まで農業委員をやっている、その情報を仕入れる限りでは同じだと判断しています。それはそれで結構です。

もう一つお伺いしたいことがございます。ページ数は145ページになります。海洋センターの管理費でございます。

ここに2300万6000円の予算措置がされています。この海洋センターのプール使用料という形で・・・、26ページです。26ページのプール使用料177万円となっています。この2000万円の経費に関して170万円の収益なんですけれども、かなりの・・・、費用対効果でみるとマイナスがあるのかなと・・・、健康をこれで維持しているんだということになれば、これはこれで意味があることなんでしょうけれども。ただ、この数字でいくとかなり持ち出しがずっと続くのかなと思うんですけれども、この辺はもっと考える必要もあるんじゃないかと思えますけれども、いかがですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） この海洋センターにつきましては、議員指摘のとおり毎年このような差が出ていまして、改善ということも過去の議会の中でも言われているわけですが、これは海洋センターの方は人件費が主になります。あと、光熱水費、温泉使用料とか、そういったものです。人件費につきましては、こちらはB&G財団というのがございますけれども、そこから譲渡してもらった施設です。譲渡を受けるについて、その条件として、B&G財団の研修を受けた指導員というものを置かなければならないという条件がありまして、それで2名を置いています。その人件費がまずあります。

光熱水費は、温泉を19口加入しているものですから、その辺の経費がかかっていると思います。目的は、議員が言ったとおり町民の健康増進とかに寄与しているわけです。それに対して収入が170万円ということなんですけれども、少しでも収入を増やすべきじゃないかということで、

使用料としては177万円、一般の方でございます。それ以外に雑入・・・、42ページ、雑入で水泳教室参加料というのがございます。これで100万円を計上しています。これは、少しでも収入を増やそうということで、プールで水泳教室を開催していきまして、子どもたちの参加料ということで200人位来ていただいています。こちらは、松崎町それから西伊豆町の方々も募集して、少しでも増やそうということで努力している次第でございます。ただ、使用料自体はこれ以上望めないということ。それから維持費は、これは2000何百万円というのは維持していく、運営していく上で必要な経費ということで、これは正直言って赤字だからと言われれば、この数字のとおりでございます。改善の余地というのは・・・、いい案がないというような状況で、それが現状でございます。

○2番（渡辺文彦君） 今、とりあえずいい案がないということなんでしょうけれども、これをずっと続けていくというのは、少ない財政の中でかなり負担になってくると思いますので、前向きにこれを検討していただきたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 温水プールを持っている町というのは、本当に少ないと思うので。これを本当に老人の方の福祉にうまくつなげてくれないかというようなことを言っているわけですが、なかなかいかないところがありますので、先ほど医療費の問題もありましたけれども、これをうまく使えるよう考えていきたいと思っています。

○1番（伴 高志君） 131ページで、これは教育費の中で、国際理解教育振興事業委託ということで、ちょっと内容は事前に聞かなかったので内容がどうこうということではないんですけど500万円、毎年こういうものを計上しているんだと思うんですけど。それで、こういう関連で・・・そうですね・・・、松崎町はやっぱり・・・、花とロマンの里ということが・・・、町ということがずっと一番根底にあって、それでやっぱりそのふるさと納税を増やしましょうという動きももちろんありますし・・・。それから私の方から・・・、これは質問というか意見で申し訳ないんですが、今年の秋、10月に日本で最も美しい村のフェスティバルがあるということで、この実行委員会が立ち上がって少しずつ動きが始まっているというのは伺いましたけれども。この花とロマンの里というところからみたら本当に小さな動きかもしれないですけども、こういう小さなフェスティバルをやっぱり内外に・・・、町の皆さんの協力とともに外にも発信して・・・。これは元々はフランスで発祥したということで、それで日本にも取り入れて全国的にも加盟数が増えてきたということなので・・・、もちろんフランスがどうこうということは特にないんですけども。すごくそれだけ松崎町というのは、美しい村連合に加盟できる本当に大事な条件が整っているところですので、こういうところを・・・、ちゃんと・・・、町民にお知らせしていつて、フェスティバル・・・、もちろん木曾町の10周年というものに比べれば小さなものかもし

れないですけれども、成功させていただきたいなということでお願いいたします。

- 教育委員会事務局長（石田正志君） 国際理解教育振興事業委託ということですが、これはALTという英語指導助手の・・・、各小学校、中学校に英語授業の助手ということで、外国の方を委託ですね。そういった派遣会社に委託して、来ていただいている1名の方、その分の委託費になります。

中学校は英語授業の補助で、小学校には5～6年生を対象に現在週に2時間くらいずつ、それから幼稚園にも月2回ほど行っていただくようになっています。その方の委託費です。

- 議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。
- 5番（藤井 要君） 総括ということですので、重点施策の関係について伺いますけれども3点ほどありまして。これは4ページの方に100万円ほどハーブ実証農園管理運営、加工品開発、これは今あれですね、草取りをやっているような状況。そしてあと、これは7ページあたりになりますと消費者生活対策費に101万3000円ですか、去年より14万8000円ほど増額してありますけれども、私は予算の中にはやっぱり枠があるわけですよ。

そして、使うのにもこれで収益、費用を計算するわけでしょうけれども、ほかの・・・、東伊豆あたりはやっぱり事業レビューですか事業仕訳、前にやりましたけれども、今これをやっていますよね。うちの方も町長、どうですか、こういうのをやって限られた予算の中で、これを足したり引いたりというのがやっぱり必要だと思うんですよ。

あと、細かくいま言った・・・、あとはもう1点、寿乗車券のですね、使用状況と、それちょっと聞きたいと思えますけれども・・・。総括的にいって町長、事業レビューとかをやる気はないですか。

- 産業建設課長（斉藤昌幸君） ハーブ実証農園管理の100万円。これについては今から5年ほど前にハーブ実証事業ということで畑でハーブを栽培し、検証するというで国庫補助事業があったわけです。それは1年限りでやるわけですがけれども、ただ、実証的には5年間ひもつきで管理しなさいよということで、今回、今年度もこういう形で設けてあります。

実際藤井議員のおっしゃるとおり、草刈等だけの管理でございます。ただ、これは今年カットするというわけにはいかないの、この5年の最後まで面倒をみななければいけないというひもつきであったために、28年度でも予算化したということでございます。

- 町長（齋藤文彦君） 今のところは、直接考えていないわけですがけれども、ちょっと東伊豆に聞いてみたいと思っています。

ただ、松崎町は総合計画を皆さんに説明してやっているわけですから、その中でそれなりの、町民の代表の皆さんが見ているわけですから、それなりのことができるのではないかなと私は

思っているところです。

○企画観光課長（山本 公君） 消費者生活対策費というようなことで出ています。これは、県の消費者行政強化促進事業補助金、収入でいくと 31 ページになりますけれども。そういうものを頂戴した中で事業を進めていく、また 28 年 4 月から下田の総合庁舎において、賀茂地域広域消費生活センターという部分があって、相談体制にあたるということを議会の方にも前に説明させていただいたことがありますけれども、その負担金プラス町内における啓発活動の費用ですね。高齢者の方が騙されたりしないように啓発用のグッズを配ったりというようなことを考えている内容でございます。そういったものでございます。

○町長（齋藤文彦君） すみません。その事業レビューのことでちょっと言い忘れたわけですが、あるところでちょっと小耳にはさんだわけですが、やっぱり事業レビューというのは、議会を軽視しているのではないかというような声が少しあるように聞いていますので、松崎町は総合計画で皆さんに説明して、こういうふうにいきますよと、やっているわけですから、これからちょっとどうなるかわかりませんが、今のところは考えてないということでございます。

○5 番（藤井 要君） 消費者の啓発カレンダーですけれども。県の方のお金の入りがあるということですが、これは私の家にも回ってくるんですよ、カレンダーが。なかなか見ないんですよ、これは。ほとんどの方が、家に掲げてカレンダーを見ているかといったら、ちょっと疑問なんですよ。

ですから、それでしたらね、もうちょっと啓発するのに違う方法を考えたらどうですか。これはもったいないと思いますよ。

県の方からお金が入るというようなこともありますので、そうしたら違う方に使うのがよっぽど・・・、私としてはいいような気がしますよ。またそれを考えてもらいたい。

先ほどの寿乗車券の関係、これも事業レビューの関係で、なんか使用方法がいろいろ・・・、だいたいいま利用率がどれくらいかということが、まだ回答がなかったもので、その中で再質問をしようかと思っているんですけれども、先ほど・・・、ないですよ、まだね。

議長、さっきの質問の回答がないもので・・・。

○健康福祉課長（高木和彦君） 予算書については 78 ページになります。下から 2 番目、扶助費で、福祉タクシー利用助成と寿乗車券を計上しています。

平成 26 年度までは、寿乗車券かタクシー利用券のどちらかを選択してくださいという形でした。

それと件数については、タクシーの場合は 690 円の初乗り料金の 5 枚分、バスの方は 3000 円

分の券ということでした。

これにつきましては、3000円分といいましても、例えば雲見の方が使いますと、3往復くらいで終わってしまいます。元々の目的は、いろいろ出歩いていただく、そういうことで作ったやつですけども、制度として見直しをしようということで、平成27年度にこれは変えました。沼津方面のバスの話なんかもちよっと出ましたけれども、今までのそのような配布じゃなくて、本来必要な人が使っていただく。ですから東海バスと受益者と私どもで基本的には1300円の乗車券を500円で購入していただく、それで自由というか何回でも購入していただくということです。

27年度中は西伊豆東海バス管内、土肥の手前とバサラ峠の手前、あとは町内という形でしたけれども、これを広げて東海バスの運行区間、熱海ですとか下田ですとか修善寺、直通バスでは三島まで使えるということで、平成28年に発足する事業ということで、細かい・・・、件数の関係ですけども、福祉タクシーの関係が、平成26年の時に・・・

今回の当初予算については、355人分考えています。

それと、ちょっと細かいことを言ってもしょうがないですけども、先ほどの制度と変えまして、元々お年寄り同士で使わない人が使う人にくれたり、なんだかんだをしていたものですから予算通り出ていましたけれども、本来使う人が使うという形にしましたら、予算については大幅に減少したような状況になっています。

○企画観光課長（山本 公君） 消費者被害防止のための啓発グッズでございますが、町の方では、広報の中で「ストップ消費者被害」というようなことで、啓発のものを毎月書いていたり、あるいはいろんな事例が発生した場合に回覧等で注意喚起をしてきている経過もございます、

これまでも本みたいなものもお配りして、そのようなことを未然に防ぐということもやってきているわけですけども、より近くで見ただけのように、カレンダーであれば掲げて毎月見ただけのかなということも考えながら、作成をしたわけでございますけれども。もっとこの方がいいじゃないかということがあれば、ぜひお聞かせいただいたり、あるいはまた区長会の中でもご意見を賜りながら、より効果が上がるというものがあれば、それに切り替えていくこともいいかなと思っていますので、いずれにしても皆さんにこういうことがあるよということを知っていただかなければならないわけですので、できるだけ一人でも被害を少なくしてまいりたいと考えています。

○5番（藤井 要君） いま課長が言ったように、一人でもやっぱり周知してもらおうのいいわけですけども、周知の方法をもっと考えて経費が節減できるとか費用対効果、多く皆さんがするような、そういうようなことを考えてもらいたい。

今、乗車券の関係、これは大幅に改善されたということで、良かったなと思っています。これからも一生懸命やってもらいたいということと・・・。

あと、ハーブの関係はあと何年くらいある・・・。そして、現状は草刈りに100万円本当にかかっているんですか。大きな声で言っちゃうと、県の方に・・・、もらっている関係で、1円しか使っていないなんてことになると、ちょっとこれは公に言えないですけども・・・。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 先ほどもご回答したとおり、5年間のひもつきということで28年度が最終年度でございます。実績・・・、27年度の実績の関係ですけども、こちらの方は草刈等の整備委託に関してはシルバーさんの方に委託をして、だいたい40万円から60万円位の実績があるわけですけども、一応、いずれにしても余裕をみて100万円ということで毎年予算措置はしています。

本当に維持管理ということだけでやっていることで、28年度が最後でございます。

○2番（渡辺文彦君） 総括ということですから、全体をまとめてお伺いしたいと思います。

町長はこの当初予算に当たるにあたって、3ページに、いろいろ重点施策を掲げています。その中で、各項目、6項目ございますけれども、前年度に比べて増えた項目が「未来を担う人材・・・」のところと「多様な主体・・・」の2つでございます。あとは、対年度比でマイナスになっています。

各項目の中で見ていって、「地域が一体となった産業が盛ん・・・」というところに対してプラスの部分には農村漁業費に関する経費で、これが若干増えて・・・、300万円位増えているわけですけども、これはほとんど鳥獣対策費に消えております。

2番目の「健やか・安心・・・」というところに関して増えているのは扶助費です、ここに関しては。これは高齢化に伴う・・・、おそらく扶助費だと思います。

3番目の「防災・・・」に関して増えているところは、広域消費生活センター設置に関わる経費だと思います。

4番目の「自然と調和・・・」に関して増えている経費は光ファイバーに関する経費であります。「未来を担う・・・」というところに関しては、これはだいぶ増えているわけですけども、この経費は3億円、幼稚園の経費であります。実質上増えたなと思うところが、最後のところなんですけれども、「多様な主体・・・」というところで若干みえてくるんですけども、この半分くらいは、やっぱり広域行政に関わる経費になっているんじゃないかと私は思います。

こうしてみると・・・、ちょっと振り返ってみて、今、町・・・、私がこうして議員になる前、もう町はあと10年経ったら結構まずいよねという意見が圧倒的にあるわけです。

この総合計画が何年先に・・・、みんなが豊かになれる状況を作り出すのか、はっきりわかん

ないんですけどね、このままだと。どう考えても、今、5年後に自分の住んでいる家の周りを見た時に、家が増えてくるという状況は考えられません。どんどん、どんどん減っていくんじゃないかなと・・・各課長さんたちの家の周りを考えても、今後10年後に自分のいる周りが賑やかになると想像できるところがございませうか。

それに対して、この予算は、本当にそれに対する適正な予算になっているかどうか、私はちょっと疑問を感じざるを得ないんですね。やっぱりこの予算では・・・、確かにいろんな予算がバランスよく配分されてはいるんですけども、今までやってきた事業のただ数字の入れ替えだけですよ、おそらくこれは。

ただ、総合戦略に沿ってある程度計画がなされていますから、それはそれでいいんですけども。この総合計画自体が本当に100パーセントこれ、こういう形で推移すればいいんですけども、推移しなかったら何の意味もない。

人口も・・・、2060年6270人という数字になっているわけですけどもこれは、私の一般質問の時にしたんですけども、この数字を維持するには15年間くらいでこの数字を維持しなければいけません。社会減と自然減の両方で・・・差引100名以上の人なくなっている状況で、毎年65名から70名くらいを今後15年間で維持していかなければならないです。この65人くらいを維持できるだけの産業基盤がここに示されていない、この状況では。

ここで町がいま税収の中で多く占めている部分は、給与所得分の税収の分がほとんどだと思います。8割近くが給与所得だと思います。この方たちの所得はみんな町内で稼がれているわけじゃなくて、外からもってきている分もあるわけですけども、地域の中に雇用はないからみんな外に出ていきます。

基本的には、この予算・・・、町の予算は地域の中の雇用をつくるのがやっぱり主体になるかとは思いますが。外に出て行く・・・、雇用をつくるじゃなくて、やっぱり地域がもっとも活性化しなければいけない。そういう意味では商店街だって、農業をやっている方だって、活性化しなければいけないんですけども・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 渡辺君、申し上げます。もう少し簡単にやってください。

○2番（渡辺文彦君） この予算でそういうバランスがみえてこないんじゃないかなと思うんですけども・・・。

○議長（稲葉昭宏君） そこまでで、答弁を。

○総務課長（山本秀樹君） なかなか手厳しいご意見だと思います。ただ地方自治体、それは国もそうですけども、予算の組み方というのは、いろいろそういう弱い部分に盛り込むものと、どうしても基盤整備であるとか、底辺の部分にまかなう経費だとか扶助費であるとか、そうい

うものでどうしても削減できない部分というのも当然あるわけです。

わが町の場合においても、なかなかそういう部分の切れない部分が多くございまして、そういう中でも実際に今回新規事業では、約1億4000万円相当の部分は新しい事業を始めています。ただ、それは例えば古い事業が終わったものがあつたりして、入れ替えというものも当然あるわけですが、そういう中で実際に新規事業にも取り組んでいると。先ほど来、議員がおっしゃるとおり、人口の増加のめどはなかなか難しいです。

それは、我われの方には、いろんな施策を今までも毎年毎年続けてきました。ただ、それが、その施策・・・、いろんなところがやっけていても、いろんな地域でやっぱり人口減というものは当然生じていますし、シャッター通りとか、そういうものもいろんなところで問題が出ています。やっぱり社会経済の動きの中とか、いろんな条件の中でやっぱりそういう状況が起きてきている。

また、松崎町の場合は交通基盤的なインフラの不備というか、弱いところというのがあって、なかなかいろんな施策をやってもその効果が生まれにくいというようなことがあると思います。

ただ、やっぱりそういう状況ばかりではいけないということで、じゃあ、どういうところから足がかりをつけていくかといえば、やはり地域に根ざした観光振興が一番だろうと・・・。それに伴って農業とか一次産業も合せて、それにリンクした形での対応をしていけば、いろんなところで賑わいは出てくるだろうというようなことから、賑わい創出をして、地域を活性化させていこうというような方向目指すという予算組みですので、今回の予算の内容の中で、そういう取り組みはたくさん盛り込んであると思いますので、ぜひご協力の方をお願いしたいと思います。

また、起死回生のこういうことをやればいいのかというアイデアがあれば、どんどん言っていただければ、その辺は我われの方でも検討して、採用できる場所、盛り込みたいようなものがあれば、そういうものもぜひ採用していきたいと思いますので、いろんなご意見をお寄せいただきたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり予算を立てるにしても、やっぱり松崎町としては儲ける仕組みを考えなければいかんということで、ずっと私は考えていまして、それで、やっぱり地域の経済性をもたらす個性の明確化と地域のデザインということを行っているわけですが、私は。

地域の経済性をもたらすというのは、いろいろ若い人に松崎に来てくれ、来てくれとやって、来て何をするんだというようなことがありまして、今、地籍に3700万円位付けてありますけれども、地籍をスタートする時に、本当にお金がかかって長時間かかるから、非常に問題

があったわけですが、地籍調査をすることによって、いろいろ耕作放棄地とかなんとか
がうまく解消できてきて、それで、やっぱり基盤整備をして農業を集約化させて畑地にして、
若い人たちに松崎に来たら「こういう農業ができるよ」というようなことができるのではない
かなと私は思っているところです。

それで個性の明確化というと、やっぱり松崎町が「日本で最も美しい村」連合に入ったのは
桜葉と棚田となまこ壁ですから、これを大々的に押し出してやっていくと。それで、地域のデ
ザインというのがあるわけですが、これは景観条例にまでもっていきたいと思うわけ
ですが、景観ガイドラインを今度委託してお願いしたわけですが、今度、予算に
付けなくて職員で景観の条例までもっていかうとしているわけで、この3つを合わせると、松
崎町はそれなりに元気になるのではないかなと思っていまして、これは予算の中にも私の考え
が盛り込まれていると感じているところです。

○議長（稲葉昭宏君） 午後1時まで休憩いたします。

(午前 11時53分)

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午後 1時00分)

○議長（稲葉昭宏君） 質疑を続けます。

○3番（長嶋精一君） 意見とそれから質問をしたいと思います。

予算書の162ページと予算（案）参考資料の16ページ、地方債の残高と、それから基金、特
に財調の残高が載っています。平成26年からですが、平成25年が地方債残高31億8300
万円、26年が32億1200万円、28年度予定が32億9700万円。

基金の財調の25年が8億5600万円、26年が8億400万円、27年が8億8600万円、28年度
予定が7億1600万円という形になっています。

こういう数期間を通じて借金は減っていない、増えている傾向。それから基金は減る傾向と
いうのはあるかもしれないけれども、景気というか拡大基調の時には、どうしても設備投資等
があつて借金が増えるということはあると思いますけれども、やはり私は、この経済が活性化
していない状況は、あまりいいことじゃないなと感じます。

そういう中で、やることはたくさんあるわけですよ。山積している。過去の負債である新港
湾の問題だとか、あるいはまつぎき荘も立ち上げっていますけれども、これからの問題もある
と・・・、あるいは福祉もこうしなければならないと・・・、たくさんあるわけです。

そういう中で、また、くどいようですけれども、牛原山整備について端的に言いますと、町長はコンサルとそれから住民の意見を聞きながら、それを決めていくということを言いましたけれども、もしこれが失敗に終わったとしたならば、私の責任じゃないよと・・・、コンサルが言ったんだ、住民も言ったじゃないかというような形にして欲しくない。

町長の給料、退職金、報酬の中には・・・、統率力、リーダーシップ、それと責任というのがあると思うんです。したがって、そこのところは、みんなが決めたことじゃないかなんてことは絶対言わないように一つお願いをしたいと思います。それが1点。もう一つは、これは質問でございます。この参考資料の20ページ、指定管理運営委託総括表というのがありまして、これの右側をずっと見ていって一番下、合計がマイナス5392万6000円、こういう結果ですね。予算の予想ですね。これはいかななものかと思うんですが、当局はこれをどういうふう考えているのか、ご意見を賜りたいと思います。以上です。

○町長（齋藤文彦君） 私は松崎町の責任者ですので、私の失敗は私の失敗とちゃんと言いますよ。そんな変なことはしません。

○企画観光課長（山本 公君） 指定管理の委託料の関係、観光施設・・・、福祉の関係も入っていますけれども、軒並み歳入から指定管理料を引くとマイナスになっているというようなことでございます。

観光の状況なんかもいろいろ厳しいという状況も町長の方からも前にお話があったかと思えますけれども。そうであっても、やはりそれぞれの施設において誘客を図るというようなことも当然やっていかなければならなりませんので、できるだけ収支差額が少なくなるような形で当然各施設とも・・・、振興公社にこれらの施設については、5年間の委託ということになっていまして、まつぎき荘は3年ということになりますけれども、その中で、できるだけ多く誘客を図っていく努力をしてまいりたいと考えています。

また昨日でしたかね。美術館ですとか重文ですとか地域の誇りというような形の施設も当然あるわけでございますので、それらもあったり、あるいはあることによって観光客の皆さんが来ていただいて宿泊施設に泊まっていただく、あるいは町内で食事をとっていただく、そういった効果もありましたり、あるいは観光の雑誌にも取り上げていただいたりという効果もあるわけですので、それらも活用しながら、できるだけ施設についても当然営業の努力もしてまいりたいと考えています。

環境改善センターの関係については、その隣のホールですとか研修施設ですとか会議室ですとか調理室ですとか、そういったものの利用からになるわけですが、役場が使用したり、団体でも免除になっている団体があったりということがありますので、女性会あるいは無

料の団体等もある中で、こういった結果になっていますけれども、会場を提供して活用していただく場面もあるものですから、こちらを増やせば、それだけお金が・・・、入らない部分も当然あったりしますので、そちらについても利用を促進するようにしてまいりたいと考えています。

○3番（長嶋精一君） 町長のその温かい性格等は、人間的に素晴らしいというのはわかっています。ただし、私が言ったのは、すみませんということでは済まないということをお願いしているんです。私は以上です。町長の答弁は結構です。

○2番（渡辺文彦君） 先ほど質問させていただいたんですけれども、もう一度改めてお伺いしたいと思います。

町長は、今年、町再生の初年度という認識のもと、従来の枠にとらわれない予算編成をされると申しました。この予算編成の中で、それが出ているところはどこですか。その辺をご答弁をお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） どこですかと言われると、これをいちいちやっていると、大変なわけですけれども、先ほど、私は総合戦略の中で2億4899万5000円入っているわけですけれども、これが私の議員に対する答えでございます。それなりに網羅されているのではないかなと思っています。

詳しいことは総務課長の方から話をします。

○総務課長（山本秀樹君） 全体的に言えば、一言で言えば創生事業に含まれる部分の地方創生にかける予算組みをしたということになります。先ほど来申し上げているとおり、創生事業の中でも約1億4000万円ほどの新規事業を加えたというような形になります。

先ほど町長の話にあったとおり、いろんなチャレンジをしていくこと、それから例えば景観計画を作って町のデザインを考えていくこと。そういうことを初年度として、町のモデルのスタイル、それから基盤をつくるという予算がこの中に入っています。

いろんな計画であるとか、そういうものもまちづくり関連の部分ということになります。牛原山の計画であるとか、いろんな様々な計画がこの中に入っていますけれども、そういうものも町長の思いの反映というふうにご理解いただければと思います。

今回の予算につきましては、今のこの町がこのままでいいのかというようなことから、再生するためには何が必要かということで様々なメニューにチャレンジしていくところです。1年、2年で結果が出るものではないと思いますけれども、町の特徴を際立たせて、何度も言うようにですけれども町に賑わいをつくって、そしてその賑わいをチャンスとして、外の方それから地元の方々がいろんな起業のチャンスとか、そういうものがつかめるような、そんな基盤整備を

したいということになります。

町が全てをやるんじゃなくて、そういう基盤を整えることによって民間の方々がそれを利用して、活力を上げていくというようなことを望んだ予算となります。

我わればかりではなくて、議員の皆さんも町の再生にかける思いは一緒だと思いますので、この中でそういう思いをくみ取っていただけたらなと・・・。

○2番（渡辺文彦君） 課長がおっしゃるように、かなり配慮された予算になっているということは私もこれを見てわかります。問題はやっぱり何年後・・・、すぐに結果が出ないためによけい苛立ちを感じるんですけども、このあいだも商工会に行って話をしていましたら、もうここ1～2年の落ち込みがものすごくひどいんだということをおっしゃっていました。それを考えると、このままいくと本当に早いうちに手を打たなければ、何もできなくなってしまうのかなという危機感があるもので、あえてこうしてしつこくお話を伺うわけですけども、いま本当に地域の雇用を生む、そういうベースをしっかり作り上げていかないと町は再生できないわけですね、おそらく。そのことに対してしっかり予算付けをしていただきたいなと・・・。それに対して、また私たちが協力できるところは当然協力するつもりではありますから、その辺よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 答弁は。

（渡辺議員「結構です」と呼ぶ）

○8番（土屋清武君） この議案第21号、平成28年度松崎町一般会計予算であります、昨日から、また以前に全協等で勉強したこと、内容もありますので、この辺で質疑終結の動議をお願いしたいと思います。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） ただいま、土屋議員から質疑を終結されたいとの動議がなされ、所定の賛同者がありますので動議は成立いたしました。

本動議のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

（「異議あり」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議がありますので挙手により採決を行います。

質疑を終結することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手多数であります。

よって、質疑を終結することについては可決されました。

よって、質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

○2番（渡辺文彦君） 私は、この予算案は本当にバランスが取れていい予算だとは思っていませんけれども、実効性に欠ける要素があまりにも多すぎます、この予算は。その意味でちょっとまだもう少し練り直す必要があるのかなと思いますので、この件に関しては反対の立場です。

○議長（稲葉昭宏君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○7番（佐藤作行君） 私は平成28年度松崎町一般会計予算に賛成いたします。

この予算書についてはいろいろ問題点も多少はございますが、現段階においてはベストとは言わないまでもベター、合格点が付けられるんじゃないかと思います。そういう立場から賛成いたします。

○議長（稲葉昭宏君） もう一度繰り返します。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（稲葉昭宏君） 反対討論なしと認めます。

次に、賛成討論の発言を許します。

○6番（福本栄一郎君） 私は議案第21号 平成28年度松崎町一般会計予算につきまして賛成いたします。

松崎町長が就任して7回目の予算編成。ここの総合戦略では基本理念として、松崎に暮らす人の喜びが多くの人々を誘うまちづくりを掲げました。大変すばらしいですけれども、その中でも、賛成の中でも、ちょっと・・・、私の異議ありの関係で言いますけれども、平成26年度から27年度にかけて16件の繰越明許、平成27年から28年にかけて12件があるわけです。こういったことは我われも責任があります。町民の方は絶えず見えています。

新年度にあたって、平成28年度は、曲がりなりにもこういった繰越明許はないということをお願いいたしまして、私は本案に賛成いたします。

○議長（稲葉昭宏君） これをもって討論を終了します。

これより議案第21号 平成28年度松崎町一般会計予算についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。

(午後 1時16分)
